

目 次

土木工事施工管理基準

1 目	的	1
2 適	用	1
3 構	成	1
4 用 語 の 意 義		1
5 管 理 の 実 施		1
6 管理項目及び方法		2
7 規 格 値		3
8 そ の 他		3

出来高管理基準及び規格値

1 共通編

1-3-3 共通的工種	1—1
1-3-3-4 矢板工	1—1
1-3-3-5 法枠工	1—1
1-3-3-6 吹付工	1—1
1-3-3-7 植生工	1—2
1-3-3-8 縁石工	1—2
1-3-3-9 小型標識工	1—2
1-3-3-10 防護柵工	1—3
1-3-3-11 路側防護柵工	1—3
1-3-3-12 区画線工	1—4
1-3-3-13 道路付属物工	1—4
1-3-3-14 桁製作工	1—5
1-3-3-15 工場塗装工	1—9
1-3-3-16 コンクリート面塗装工	1—10
1-3-4 基礎工	1—10
1-3-4-1 一般事項	1—10
1-3-4-3 法留基礎工	1—10
1-3-4-4 既製杭工	1—11
1-3-4-5 場所打杭工	1—11
1-3-4-6 深礎工	1—11
1-3-4-7 オープンケーソン基礎工	1—12
1-3-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	1—12
1-3-4-9 鋼管井筒基礎工	1—12
1-3-5 石・ブロック積(張)工	1—13
1-3-5-3 コンクリートブロック工	1—13
1-3-5-4 緑化ブロック工	1—14

1-3-5-5	石積（張）工	1—14
1-3-6	一般舗装工	1—15
1-3-6-5	アスファルト舗装工	1—15
1-3-6-6	コンクリート舗装工	1—18
1-3-6-7	薄層カラー舗装工	1—22
1-3-7	地盤改良工	1—24
1-3-7-2	路床安定処理工	1—24
1-3-7-3	置換工	1—24
1-3-7-4	表層安定処理工	1—24
1-3-7-5	パイルネット工	1—25
1-3-7-7	バーチカルドレーン工	1—26
1-3-7-8	締固め改良工	1—26
1-3-7-9	固結工	1—26
1-3-10	仮設工	1—27
1-3-10-5	土留・仮締切工	1—27
1-3-10-8	地中連続壁工（壁式）	1—28
1-3-10-9	地中連続壁工（柱列式）	1—28
1-3-10-25	法面吹付工	1—28
1-4-3	河川・海岸・砂防土工	1—29
1-4-3-2	掘削工（切土工）	1—29
1-4-3-3	盛土工	1—29
1-4-3-4	盛土補強工	1—29
1-4-3-5	整形仕上げ工（盛土工）	1—30
1-4-3-6	天端敷砂利工	1—30
1-4-4	道路土工	1—30
1-4-4-2	掘削工（切土工）	1—30
1-4-4-3	路体盛土工	1—31
1-4-4-4	路床盛土工	1—31
1-4-4-5	法面整形工（盛土工）	1—31
1-5-5	鉄筋	1—31
1-5-5-3	鉄筋の組立て	1—31

2 河川編

2-1	築堤・護岸	1—32
2-1-5	法覆護岸工	1—32
2-1-6	擁壁護岸工	1—33
2-1-7	根固工	1—34
2-1-8	水制工	1—35
2-1-9	付帯道路工	1—36
2-2	浚渫	1—38
2-2-2	浚渫工	1—38

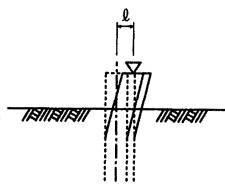
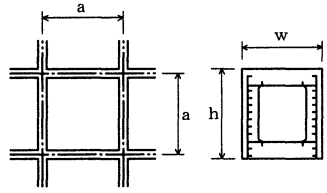
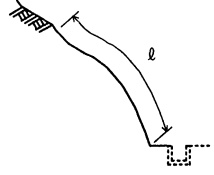
2-3	樋門・樋管	1—39
2-3-3	樋門・樋管本体工.....	1—39
2-3-5	水路工.....	1—40
2-3-6	付属物設置工.....	1—42
2-4	水門	1—42
2-5	堰	1—42
2-5-3	工場製作工.....	1—42
2-5-4	可動堰本体工.....	1—47
2-5-5	固定堰本体工.....	1—47
2-5-6	魚道工.....	1—48
2-6	排水機場	1—48
2-6-3	機場本体工.....	1—48
2-6-4	沈砂池工.....	1—49
2-7	床止め・床固め	1—49
2-7-3	床止め工.....	1—49
2-7-4	床固め工.....	1—50
3	砂防編	
3-1	砂防ダム	1—51
3-1-4	コンクリートダム.....	1—51
3-1-5	鋼製ダム工.....	1—52
3-3	斜面对策	1—54
3-3-4	擁壁工.....	1—54
3-3-5	山腹水路工.....	1—55
3-3-6	地下水排除工.....	1—57
3-3-8	抑止杭・アンカー工.....	1—58
4	ダム編	
4-1	コンクリートダム	1—59
4-1-4	ダムコンクリート工.....	1—59
4-2	フィルダム	1—62
4-2-3	盛立工.....	1—62
4-3	基礎グラウチング	1—63
4-3-3	ボーリング工.....	1—63
5	道路編	
5-1	道路改良	1—64
5-1-3	工場製作工.....	1—64
5-1-4	法面工.....	1—64
5-1-5	擁壁工.....	1—65
5-1-7	カルバート工.....	1—67

5-1-8	小型水路工	1—68
5-1-9	落石雪害防止工	1—69
5-1-10	遮音壁工	1—71
5-2	舗装	1—72
5-2-3	舗装工	1—72
5-2-4	路面排水工	1—81
5-2-6	標識工	1—81
5-2-7	道路附属物施設工	1—82
5-3	橋梁下部	1—83
5-3-3	工場製作工	1—83
5-3-4	橋台工	1—86
5-3-5	R C橋脚工	1—87
5-3-6	鋼製橋脚工	1—88
5-4	鋼橋上部	1—91
5-4-3	工場製作工	1—91
5-4-4	鋼橋架設工	1—97
5-4-5	橋梁現場塗装工	1—98
5-4-6	床版工	1—99
5-4-7	支承工	1—99
5-4-8	橋梁附属物工	1—100
5-4-9	歩道橋本体工	1—101
5-5	コンクリート橋上部	1—103
5-5-3	工場製作工	1—103
5-5-4	コンクリート主桁製作工	1—104
5-5-5	コンクリート橋架設工	1—108
5-5-6	床版・横組工	1—109
5-5-7	支承工	1—109
5-5-8	橋梁附属物工	1—110
5-6	トンネル (NATM)	1—112
5-6-4	支保工	1—112
5-6-5	覆工	1—113
5-6-6	インバート工	1—114
5-6-7	坑内付帯工	1—114
5-6-8	坑門工	1—115
5-7	トンネル (矢板)	1—116
5-7-5	覆工	1—116
5-7-6	インバート工	1—117
5-12	共同溝	1—117
5-12-5	現場打ち構築工	1—117
5-12-6	プレキャスト構築工	1—119

5-13	電線共同溝工	1-119
5-13-3	電線共同溝工.....	1-119
5-13-4	付帯設備工.....	1-120
5-16	道路修繕	1-121
5-16-3	工場製作工.....	1-121
5-16-4	舗装修繕工.....	1-122
5-16-5	道路構造物修繕工.....	1-125
5-16-6	橋梁修繕工.....	1-126
6	公園関係	1-128
7	下水道編	1-130
7-1	管路	1-130
	管きよ工（開削）.....	1-130
	管きよ工（小口径推進、推進）.....	1-134
	管きよ工（シールド）.....	1-135
	マンホール工.....	1-136
	特殊マンホール工.....	1-137
	取付管およびます工.....	1-140
	立坑工.....	1-141
7-2	処理場・ポンプ場	1-142
	敷地造成土工.....	1-142
	本体作業土工.....	1-142
	本体仮設工.....	1-142
	本体築造工.....	1-143
	場内管路工.....	1-147

出来形管理基準及び規格値

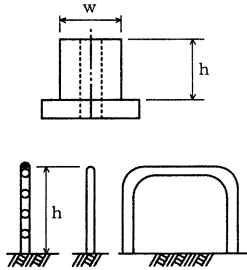
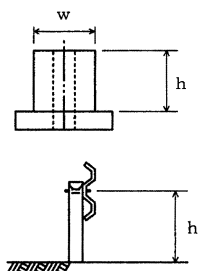
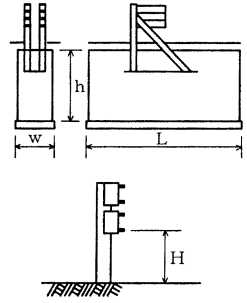
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅型鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 ∇		±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						根 入 長		設計値以上			
						変 位 l		100			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	5	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 l	$l < 10m$	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		曲線部は設計図書による
							$l \geq 10m$	-200			
						幅 w		-30			
						高 さ h		-30			
						吹付枠中心間隔 a		±100			
						延 長 L		-200			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	5	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 l	$l < 10m$	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
							$l \geq 10m$	-200			
						延 長 L		-200			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	6		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 l	$l < 3m$	-50	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 20㎡に1箇所の割合で検測ピン等により測定する。 200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。 1施工箇所毎		
							$l \geq 3m$	-100			
						厚さ t	$t < 5cm$	-10			
							$t \geq 5cm$	-20			
						但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上					
						延 長 L		-200			

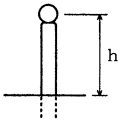
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	7	1	植生工 (種子吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生ネット工) (種子帯工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法長 ℓ	$\ell < 5\text{ m}$	-200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の-4%				
						盛土法長 ℓ	$\ell < 5\text{ m}$	-100				
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の-2%				
						延 長 L	-200	1施工箇所毎				
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	7	2	植生工 (厚層基材吹付工) (客土吹付工)	法長 ℓ	$\ell < 5\text{ m}$	-200	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 20㎡に1箇所の割合で検測ピン等により測定する。施工面積200㎡につき1箇所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 検査孔により測定。			
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の-4%				
						厚さ t	$t < 5\text{ cm}$	-10				
							$t \geq 5\text{ cm}$	-20				
						但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。						
						延 長 L	-200	1施工箇所毎				
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	8		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延 長 L		-200	1箇所/1施工箇所			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	9		小型標識工	設 置 高 さ H		設計値以上	1箇所/1基			
						基礎	幅 w (D)	-30	基礎 1 基毎			
							高さ h	-30				
							根 入 れ 長	設計値以上				

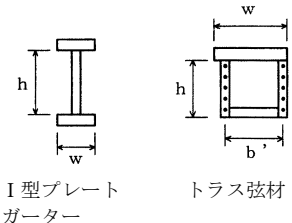
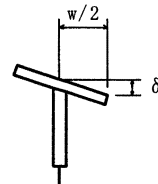
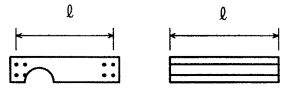
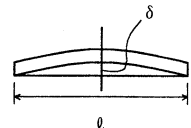
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	10	1	防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。 1箇所/1施工箇所		
							高さ h	-30			
							パイプ取付高 H	+30 -20			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	11	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。 1箇所/1施工箇所		
							高さ h	-30			
							ビーム取付高 H	+30 -20			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	11	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	1箇所/1基礎毎 1箇所/1施工箇所		
							高さ h	-30			
							延長 L	-100			
							ケーブル取付高 H	+30 -20			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	12		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
						幅 w	設計値以上			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	13		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		

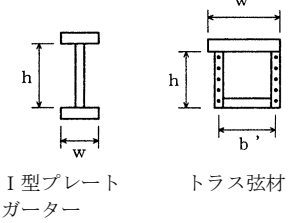
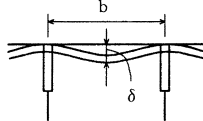
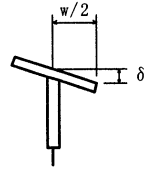
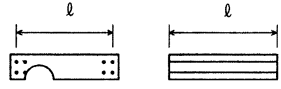
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要				
								プレートガーター	トラス・アーチ等						
1 共 通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	14	1	桁製作工	部 材 精 度	フランジ幅 w (m)	± 2 …… w ≤ 0.5 ± 3 …… 0.5 < w ≤ 1.0	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型プレート ガーター トラス弦材				
							腹板高 h (m)	± 4 ……				床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
							腹板間隔 b' (m)	1.0 < w ≤ 2.0 ± (3 + w/2) 2.0 < w							
							板の平面度 δ (mm)	h / 250						主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。
							箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b / 150							
フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。													
部材長 ℓ (m)	プレートガーター ± 3 …… ℓ ≤ 10 ± 4 …… ℓ > 10 トラス、アーチなど ± 2 …… ℓ ≤ 10 ± 3 …… ℓ > 10														
圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000	主要部材全数を測定。													

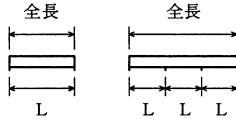
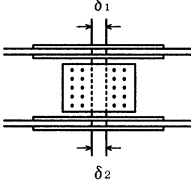
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要		
								プレートガーター	トラス・アーチ等				
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	14	1	桁製作工	仮 組 立 精 度	全長、支間長 L (m)	$\pm (10 + L/10)$				主桁、主構全数を測定。	
							主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \dots\dots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \dots\dots B > 2$				各支点及び各支間中央付近を測定。	
							主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \dots\dots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \dots\dots h > 5$	—	両端部及び中心部を測定。			
							主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \dots\dots$ $L \leq 100$ $25 \dots\dots L > 100$		最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。		主げた	
							主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \dots\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots\dots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \dots\dots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \dots\dots 80 < L \leq 200$		各主桁について10~12m間隔を測定。	各主構の各格点を測定。		
							主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	10		どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			主げた
							主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$		各主桁の両端部を測定。	支点及び支間中央付近を測定。		
							現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5		主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合			

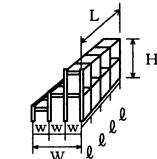
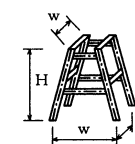
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	測定場所											
								プレートガーター	トラス・アーチ等													
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	14	2	桁製作工 (仮組立による検査を省略する場合)	部 材 精 度	フランジ幅 w (m)	± 2 …… w ≤ 0.5 ± 3 …… 0.5 < w ≤ 1.0	主桁、主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型プレート ガーター トラス弦材</p>	工場										
							腹板高 h (m)	± 4 ……					床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。								
							腹板間隔 b' (m)	± 3 …… 1.0 < w ≤ 2.0 ± (3+w/2) 2.0 < w														
							板の平面度 δ (mm)	h / 250							主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		工場				
							箱桁等の及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b / 150														
							フランジの直角度 δ (mm)	w / 200											原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。 w : 車道幅員 (m)		工場	
							プレートガーター	± 3 …… l ≤ 10 ± 4 …… l > 10														
							トラス、アーチなど	± 2 …… l ≤ 10 ± 3 …… l > 10														
							伸縮継手	-5 ~ +10 …… l ≤ 10 -5 ~ + (5+w/2) …… l > 10														
							圧縮材の曲がり δ (mm)	l / 1000														

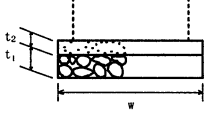
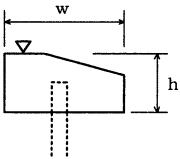
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	測定場所		
								プレートガーター	トラス・アーチ等				
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	14	2	桁製作工 (仮組立による検査を省略する場合)	部 材 精 度	主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2)$ $\cdots \cdots h > 5$	—	両端部及び中心部を測定。		工場	
							主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots \cdots$ $L \leq 100$ $25 \cdots \cdots L > 100$	—	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L: 測線長 (m)		主げた	工場
							主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	—	各主桁の両端部を測定。 支点及び支間中央付近を測定。		工場	
							全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$	—	主桁、主構全数を測定。		現場	
							主桁、主構の中心間 距離 B (m)	$\pm 4 \cdots \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots \cdots B > 2$	—	各支点及び各支間中央付近を測定。		現場	
							架設完了キャンバー δ (mm)	$L \leq 40 \cdots \cdots$ $\pm 25\text{mm}$ $L > 40 \cdots \cdots$ $\pm \{25+(L-40)\}$	—	L: 主桁、主構の支間長 (m)	—	現場	
							主桁、主構の 橋端における出入差 δ (mm)	10	—	どちらか一方の主桁(主構)端を測定		主げた	現場
							現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5	—	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		現場	
							平面对角線長 δ (mm)	$ \delta \leq 15\text{mm}$	—	—	—	現場	

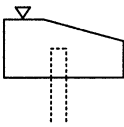
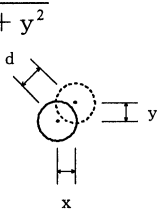
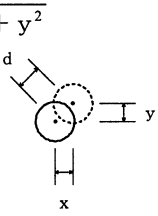
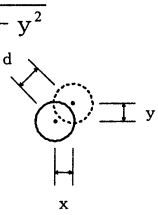
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	14	3	桁製作工 (鋼製えん堤製作工(仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。	 <p>図 a 格子形 鋼製砂防ダム</p>  <p>図 b 鋼製スリット ダムA型</p>  <p>図 c 鋼製スリット ダムB型</p>	
						堤 長 L	±30			
						堤 長 l	±10			
						堤 幅 W	±30			
						堤 幅 w	±10			
						高 さ H	±10			
						ベースプレートの高さ	±5			
						本 体 の 傾 き	±H/0.5			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	15		工場塗装工	塗 膜 厚	<p>a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>	<p>工場塗装終了時に測定。ただし、工場の上塗りまで塗装する場合は、下塗り終了時と上塗り終了時に測定。なお、鋼橋塗装便覧にいうC塗装系の場合は、無機ジンクリッチペイントの塗布後にも測定。</p> <p>1 ロットの大きさは、500㎡とする。</p> <p>1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。</p>		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	16		コンクリート面塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を越えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。		
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚さ t ₁ , t ₂	-30			
						延 長 L	各構造物の規格値による			
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	3	1	法留基礎工 (現場打)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						幅 w	-30			
						高 さ h	-30			
						延 長 L	-200			

単位:m m

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	3	2	法留基礎工 (プレキャスト)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						延 長 L	-200			
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	D/4以内かつ 100以内 Dは杭径			
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	5		場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	D/4以内かつ 100以内 Dは杭径			
						杭 径	設計径 (公称 径) 以上			
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	150以内			

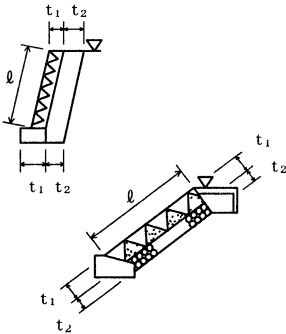
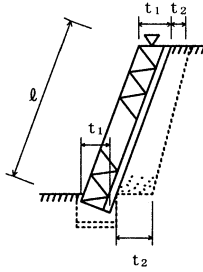
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ∇	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						ケーソンの長さ l	-50			
						ケーソンの幅 w	-50			
						ケーソンの高さ h	-100			
						ケーソンの壁厚 t	-20			
						偏 心 量 d	300以内			
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ∇	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						ケーソンの長さ l	-50			
						ケーソンの幅 w	-50			
						ケーソンの高さ h	-100			
						ケーソンの壁厚 t	-20			
						偏 心 量 d	300以内			
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	9		鋼管井筒基礎工	基 準 高 ∇	± 100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	300以内			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積み) (コンクリートブロック張り)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。 200㎡につき原則として1回の割合で測定する。			
						法長 l	$l < 3\text{ m}$				-50
							$l \geq 3\text{ m}$				-100
						厚さ(ブロック積張) t_1	-50				
						厚さ(裏込) t_2	-50				
						延長 L	-200				
						抜石又は注水検査					
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法長 l	-100				
						延長 L_1, L_2	-200				
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅 w	-100				
						延長 L	-200				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	4		緑化ブロック工	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。 200㎡につき原則として1回の割合で測定する。			
						法長ℓ	ℓ < 3 m				-50
							ℓ ≥ 3 m				-100
							厚さ(ブロック) t ₁				-50
							厚さ(裏込) t ₂				-50
							延長 L				-200
							抜き又は注水検査				
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	5		石積(張)工	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。 200㎡につき原則として1回の割合で測定する。			
						法長ℓ	ℓ < 3 m				-50
							ℓ ≥ 3 m				-100
							厚さ(石積・張) t ₁				-50
							厚さ(裏込) t ₂				-50
							延長 L				-200
							抜き又は注水検査				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	5	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長40m毎に1箇所を割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長40m毎に1箇所を割に測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45	-45	-15	-15			
						幅	-50	-50	—	—			
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	5	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50	-50	—	—			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000 m²以上とする。</p> <p>小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000 m²未満。</p> <p>厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コアー採取について</p> <p>橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50	-50	—	—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	-50	-50	—	—			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	- 12	- 3	- 4	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000 m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-25	-25	—	—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	- 7	- 9	- 2	- 3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性はアスファルト舗装要綱による。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-25	-25	—	—			
						平 坦 性	—	—	3 m ³ プロファイルメーター (σ) 2.4mm 以下 長読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下	—			

単位:m m

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	基準高は延長40m毎に1箇所割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長40m毎に1箇所割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						厚 さ	-45		-15			
						幅	-50		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長40m毎に1箇所割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして		
						幅	-50		—			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定処理工)	厚 さ	-25	-30	- 8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m ² 未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚 さ	- 9	-12	- 3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-25		—			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	-10		-3.5	厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長40m毎に1箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-25		—			
						平 坦 性	—		コンクリートの硬化後3m ² プロファイルターにより機械舗設の場合(σ)2mm以下 人力舗設の場合(σ)3mm以下			
						目地段差	±2					
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	±50	—	基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						厚 さ	-45		-15			
						幅	-50		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50		—			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは、掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m ² 未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	- 9	-12	- 3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-25		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	-15		-4.5	厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長40m毎に1箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。	
						幅	-35		—			
						平 坦 性	—		転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメーターにより(σ)3mm以下。			
						目地段差	± 2					

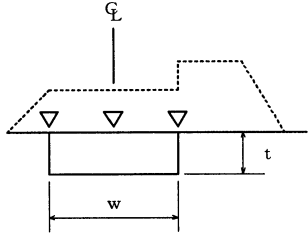
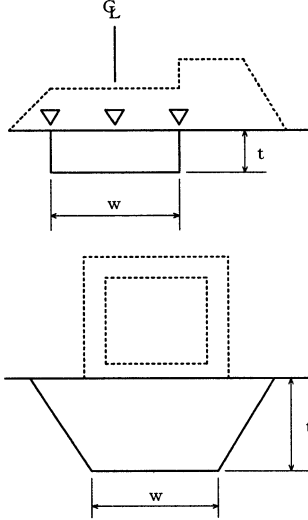
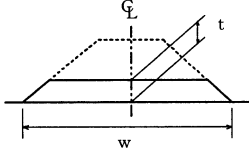
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	7	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45		-15			
						幅	-50		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	7	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	- 8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50		—			

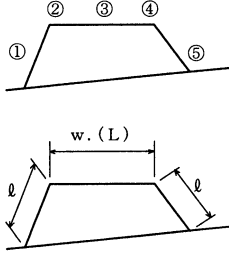
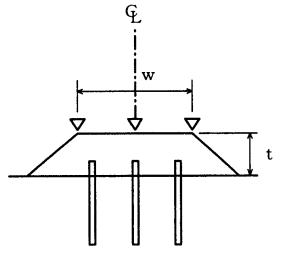
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	7	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	7	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	7	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	-12	- 3	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	-25		—			

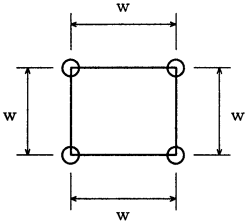
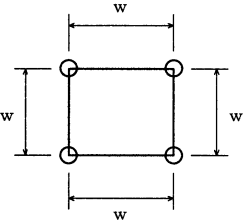
単位: mm

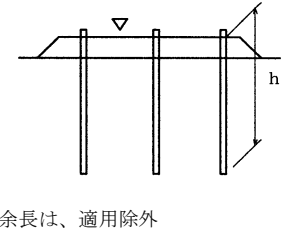
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	2		路床安定処理工	基 準 高 ∇	± 50	延長40m毎に1箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						施 工 厚 さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			
1 共通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	3		置換工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 延長40m（50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。基 準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						置 換 厚 さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			
1 共通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	4	1	表層安定処理工 (サンドマット)	施 工 厚 さ t	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			

単位: mm

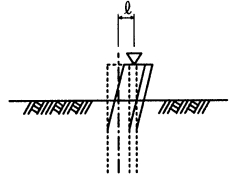
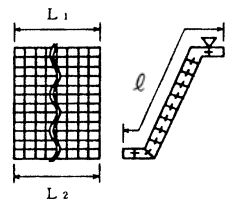
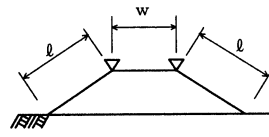
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	4	2	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基 準 高 ∇	特記仕様書に 明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 w. (L) は施工延長40mにつき1箇所、80m以下のものは 1施工箇所につき3箇所。 (L) はセンターライン及び表裏法肩で行う。		
						法 長 l	-500			
						天 端 幅 w	-300			
						天端延長 L	-500			
1 共通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	5		パイルネット工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。		
						厚 さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			

単位: mm

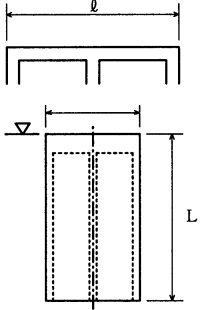
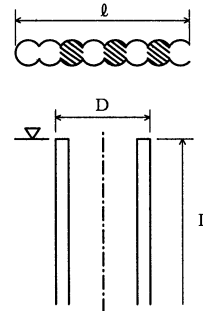
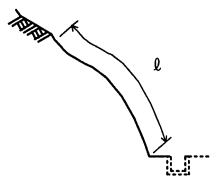
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共 通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	7	8	パーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工) 締固め改良工 (サンドコンパクション パイル工)	位置・間隔w	±100	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。			
						杭 径 D	設計値以上				全本数
						打 込 長 さ h	設計値以上				
						サンドドレーン、袋詰式 サンドドレーン、サンド コンパクションパイルの 砂投入量	—	全本数 計器管理にかえることができる。			
1 共 通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (セメントミルク攪拌 工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ▽	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。			
						位置・間隔w	D/4以内				全本数
						杭 径 D	設計値以上				
						深 度 ℓ	設計値以上				



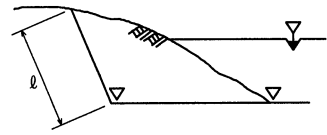
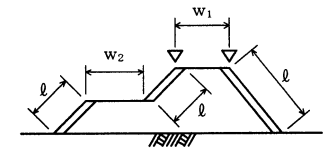
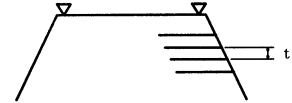
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 ∇	± 100	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
						根 入 長	設計値以上			
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ l	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)		
						配 置 誤 差	100			
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 l	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
						延 長 L_1 L_2	-200			
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 ∇	-50	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
						天 端 幅 w	-100			
						法 長 l	-100			
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 ∇	-50	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		

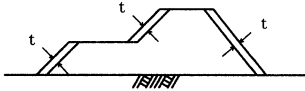
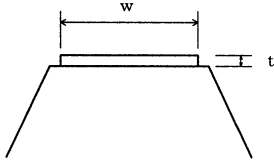
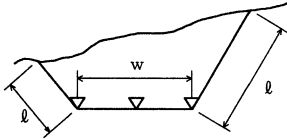
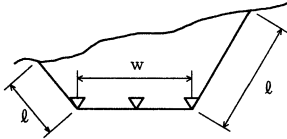
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
1 共 通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	8		地中連続壁工（壁式）	基 準 高 ∇	± 50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所。延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
						連壁の長さ l	-50					
						変 位	300					
						壁 体 長 L	-200					
1 共 通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	9		地中連続壁工（柱列式）	基 準 高 ∇	± 50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所。延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		D：杭径		
						連壁の長さ l	-50					
						変 位	D/4以内					
						壁 体 長 L	-200					
1 共 通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	25		法面吹付工	法長 l	$l < 3\text{ m}$	-50	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。 1施工箇所毎			
							$l \geq 3\text{ m}$	-100				
						厚さ t	$t < 5\text{ cm}$	-10				
							$t \geq 5\text{ cm}$	-20				
						但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上						
						延 長 L						-200

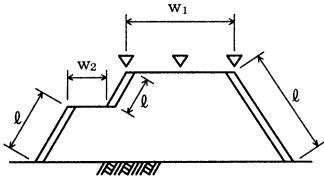
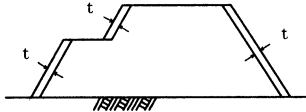
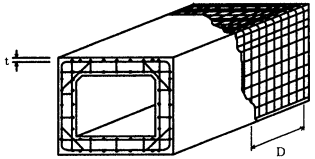
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2		掘削工 (切土工)	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は掘削部の両端で測定。			
						法長 l	$l < 5 \text{ m}$				-200
							$l \geq 5 \text{ m}$				法長 - 4%
1 共通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3		盛土工	基 準 高 ∇	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は各法肩で測定。			
						法長 l	$l < 5 \text{ m}$				-100
							$l \geq 5 \text{ m}$				法長 - 2%
						幅 w_1, w_2	-100				
1 共通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土 (テールアルメ) 壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高 ∇	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						厚 さ t	-50				
						控 え 長 さ	設計値以上				

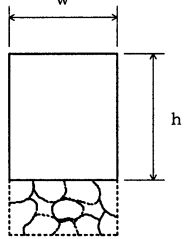
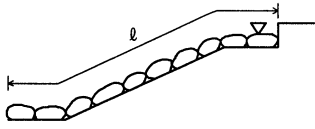
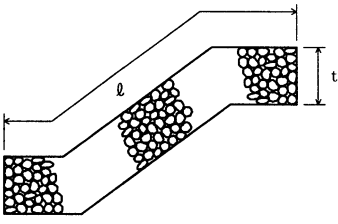
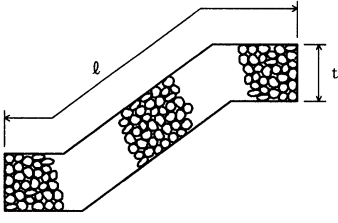
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
1 共 通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		整形仕上げ工（盛土工）	厚 さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。					
						厚 さ t	t < 15cm				-25	幅は、施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。	
						幅 w	t ≥ 15cm				-50		
幅 w		-100											
1 共 通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	6		天端敷砂利工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。					
						法長 ℓ	ℓ < 5 m				-200		
						法長 ℓ	ℓ ≥ 5 m				法長 - 4 %		
						幅 w					-100		
1 共 通 編	4 土 工	4 道 路 土 工	2		掘削工（切土工）	基 準 高 ▽	±50	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。					
						法長 ℓ	ℓ < 5 m				-200		
						法長 ℓ	ℓ ≥ 5 m				法長 - 4 %		
						幅 w					-100		

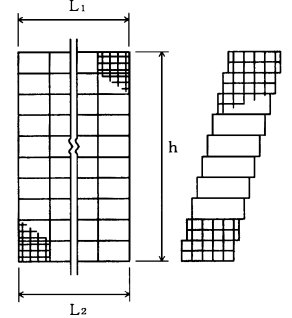
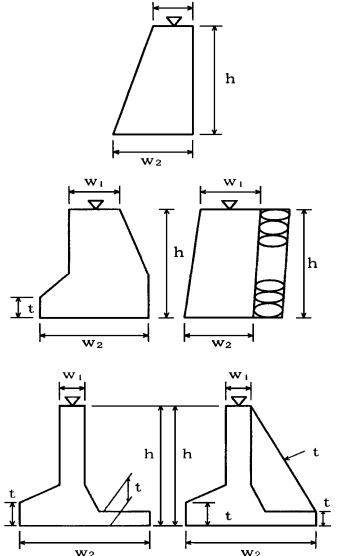
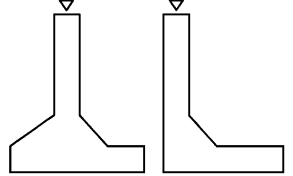
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通 編	4 土 工	4 道 路 土 工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 			
						法長 ℓ	ℓ < 5 m				-100
							ℓ ≥ 5 m				法長-2%
						幅 w ₁ , w ₂	-100				
1 共通 編	4 土 工	4 道 路 土 工	5		法面整形工(盛土工)	厚 さ t	※-30	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。 			
1 共通 編	5 無 筋 、 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト	5 鉄 筋	3 鉄 筋 の 組 立 て		鉄筋の組立て	平均間隔 d	±φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D: 本間の長さ n: 10本程度とする φ: 鉄筋径 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書(設計編9.2)参照 ※重要構造物かつ主鉄筋について適用する 			
						か ぶ り i	±φかつ 最小かぶり				

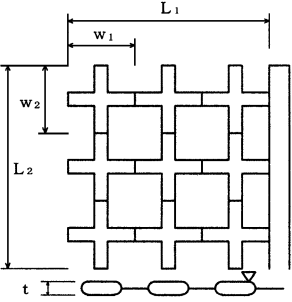
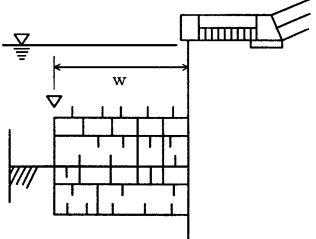
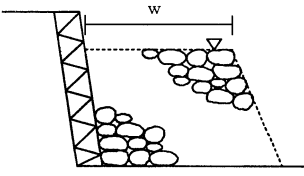
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	4		護岸付属物工	幅 w	-30	各格子間の中央部1箇所を測定。			
						高さ h	-30				
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	9	1	多自然型護岸工 (巨石張り) (巨石積み)	基準高 ∇	± 500	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法長 l	-200				
						延長 L	-200				
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	9	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法長 l	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						厚さ t	$-0.2t$				
						延長 L	-200				
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	13	1	羽口工 (じゃかご)	法長 l	$l < 3m$	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
							$l \geq 3m$	-100			
						厚さ t	-50				

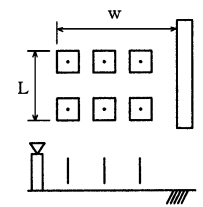
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
2	河川編	1	5	13	2	羽口工 (ふとんかご) (かご枠)	高 さ h	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 		
							延 長 L1、L2	-200			
2	河川編	1	6	3		コンクリート擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎。 100mにつき1箇所の割合で測定する。 		
							厚 さ t	-20			
							裏 込 厚 さ	-50			
							幅 w_1, w_2	-30			
							高 さ h	$h < 3\text{m}$			-50
								$h \geq 3\text{m}$			-100
							延 長 L	-200			
注 水 検 査											
2	河川編	1	6	4		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎。 		
							延 長 L	-200			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
2	河川編	1	築堤・護岸	7	根固め工	3	根固めブロック工	基準高▽	層 積	±100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。 1施工箇所毎		
									乱 積	± t / 2			
									厚 さ t	-20			
								幅 w ₁	層 積	-20			
								w ₂	乱 積	- t / 2			
								延長 L ₁	層 積	-200			
								L ₂	乱 積	- t / 2			
2	河川編	1	築堤・護岸	7	根固め工	5	沈床工	基準高▽	±150	1組毎			
								幅 w	±300				
								延長 L	-200				
1	築堤・護岸	7	根固め工	6	捨石工	6	基準高▽	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
							幅 w	-100					
							延長 L	-200					

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
2	河川編	1	築堤・護岸	8	水制工	杭出し水制工	基 準 高 ∇	± 50	1組毎		
						幅 w	± 300				
						方 向	$\pm 7^\circ$				
						延 長 L	-200				

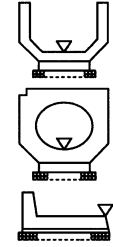
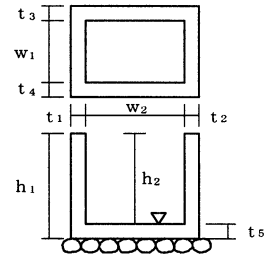
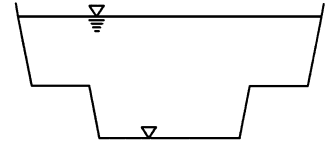
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	6	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45		-15			
						幅	-50		—			
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	6	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50		—			

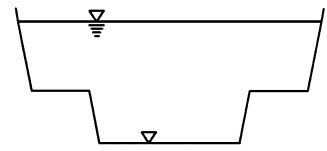
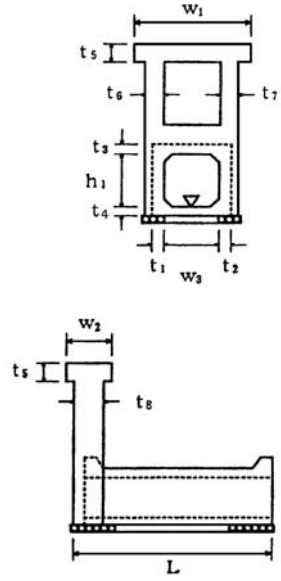
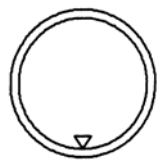
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	6	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	6	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定 処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	6	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	-25		—			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	7		側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高▽		±30		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎			
						延長 L		-200					
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	8		集水樹工	基準高▽		±30		1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合			
						※厚さ t ₁ ~t ₅		-20					
						※幅 w ₁ , w ₂		-30					
						※高さ h ₁ , h ₂		-30					
2 河川編	2 浚渫(川)	2 浚渫工(ポンプ浚渫船)	2		浚渫船運転工			上限	下限	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。			
						基準高▽	電気船	200ps	+200				-800
								500ps	+200				-1000
								1000ps	+200				-1200
						ディーゼル船		250ps	+200				-800
								420ps	+200				-1000
								600ps	+200				-1000
								1350ps	+200				-1200
						幅							-200
						延長							-200

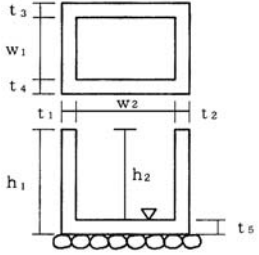
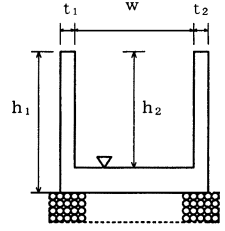
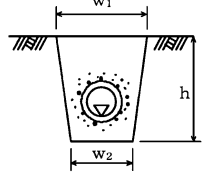
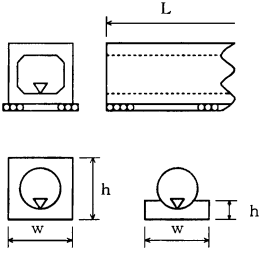
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
2 河川編	2 浚渫(川)	3 浚渫船(グラブ船)	2		浚渫船運転工	基準高 ▽	上限 +200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		
						幅	-200			
						延長	-200			
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管 本体工	6	1	函渠工 (本体工)	基準高 ▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷前)に測定する。 函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所で測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。		
						厚さ t ₁ ~t ₈	-20			
						幅 w ₁ , w ₂	-30			
						内空幅 w ₃	-30			
						内空高 h ₁	±30			
						延長 L	-200			
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管 本体工	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基準高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
						延長 L	-200			

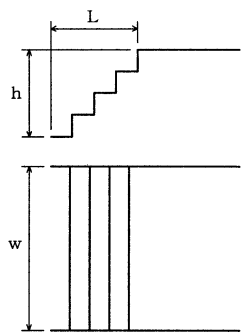
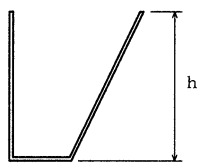
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管 本工	6	3	函渠工 (PC函渠)	基準高 ∇	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合 1 施工箇所毎		
						※幅 w	-50			
						※高さ h	-30			
						延長 L	-200			
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管 本工	7		翼壁工	基準高 ∇	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。 1 施工箇所毎		
						厚さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h	±30			
						延長 L	-50			
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	3		側溝工	基準高 ∇	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 なお、製品使用の場合、製品寸法については規格証明書等による。 1 施工箇所毎		
						厚さ t_1, t_2	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h_1, h_2	-30			
						延長 L	-200			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	4		集水樹工	基準高 ∇	± 30	1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高さ h_1, h_2	-30			
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	5		堤脚水路工	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。なお、製品使用の場合、製品寸法については規格証明書等による。 1 施工箇所毎		
						厚さ t_1, t_2	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h_1, h_2	-30			
						延 長 L	-200			
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	6		暗渠工	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。なお、製品使用の場合、製品寸法については規格証明書等による。 1 施工箇所毎		
						幅 w_1, w_2	-50			
						深 さ L	-30			
						延 長 L	-200			
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	7		樋門接続暗渠工	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。※印は、現場打部分のある場合。 1 施工箇所毎		
						※幅 w	-50			
						※高 さ h	-30			
						延 長 L	-200			

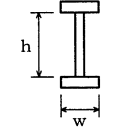
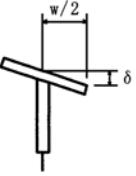
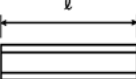
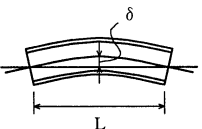
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
2 河川編	3 樋門・樋管	6 付属物設置工	5		階段工 (現場打階段) (プレキャスト階段)	幅 w	-30	1 箇所 / 1 施工箇所		
						高さ h	-30			
						長さ L	-30			
						段 数	±0 段			
2 河川編	4 水門	3 水門工	3		水門	基準高 ∇	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h	±30			
						延長 L	-50			
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	3		刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	±2 …… $h \leq 0.5$ ±3 …… $0.5 < h \leq 1.0$ ±4 …… $1.0 < h \leq 2.0$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						外周長 ℓ (m)	±(10+L/10)			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	6		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m)	-5 ~ +10 ... $w \leq 10$ -5 ~ + (5 + $w/2$) ... $w > 10$	製品全数を測定。 			
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ± 4			両端及び中央部付近を測定。 	
							フィンガーの食い違い δ_2 (mm)	± 2				(実測値) δ_2 
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	7		鋼製耐震連結装置製作工	部材	部材長 l (m)	± 3 $l \leq 10$ ± 4 $l > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。			
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	8		鋼製排水管製作工	部材	部材長 l (m)	± 3 $l \leq 10$ ± 4 $l > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。			

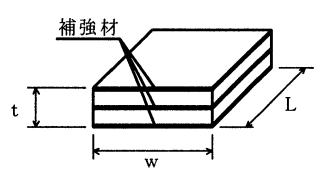
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	9		プレビーム用桁製作工	部 材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \dots 2.0 < w$	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型プレート ガーター			
							フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$				各支点及び各支間中央付近を測定。	
							部材長 l (m)	$\pm 3 \dots l \leq 10$ $\pm 4 \dots l > 10$				原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	
						仮組立時 主桁のそり	$-5 \sim +5$ $\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\dots 20 < L \leq 40$	各主桁について10~12m間隔を測定。					
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	10		橋梁用防護柵製作工	部 材	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。				

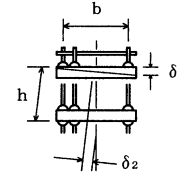
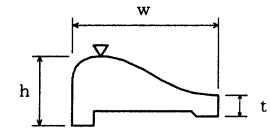
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
2	5	3	11	1	鋳造費 (金属支承工)	上下部構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0	製品全数を測定。				
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ					
								≦1000mm				≦1	
								センターボスを基準にした孔位置のずれ					
								>1000mm				≦1.5	
							アンカーボルト孔	孔の直径				≦100mm	+3 -1
								>100mm				+4 -2	
							孔の中心距離					JIS B 0412 並級	
							センターボス	ボスの直径				+0 -1	
								ボスの高さ				+1 -0	

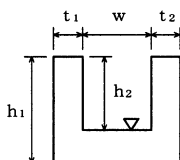
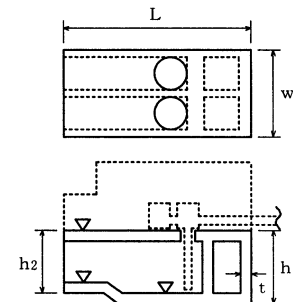
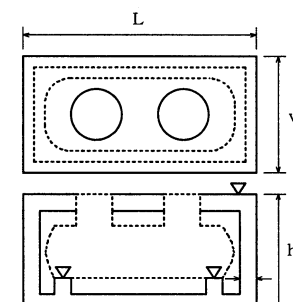
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要					
2	河川編	5	堰	3	工場製作工	11	1	鑄造費 (金属支承工)	上杣の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0412 中級	製品全数を測定。				
									全移動量 l	$l \leq 300\text{mm}$				± 2	
										$l > 300\text{mm}$				$\pm l / 100$	
									組立絶対高さH	上、下面加工仕上げ				± 3	
										コンクリート構造用				$H \leq 300\text{mm}$	± 3
														$H > 300\text{mm}$	(H/200+3)小数点以下切り捨て
									普通寸法	鑄放し長さ寸法				JIS B 0412 並級	
鑄放し肉厚寸法		JIS B 0412 並級													
機械加工寸法		JIS B 0405 粗級													
2	河川編	5	堰	3	工場製作工	11	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w , L , $D \leq 500$	$0 \sim +5$	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差				
									$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$	$0 \sim +1\%$					
									$1500 < w, L, D$	$0 \sim +15$					
									厚さ t	$t \leq 20\text{mm}$				$0 \sim +1$	
										$20 < t \leq 160$				$0 \sim +5\%$	
										$160 < t$				$0 \sim +8$	
									平面度					1	

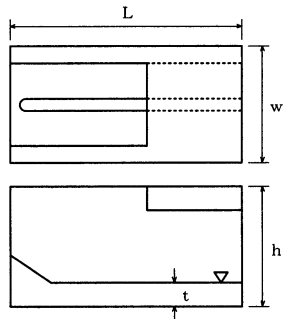
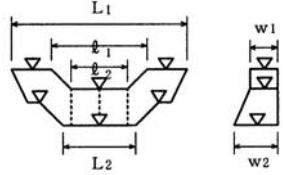
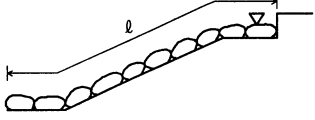
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	12		アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$	軸心上全数測定。		
							鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$			
							高さ h (mm)	± 5			
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	13		仮設材製作工	部 材	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
2 河川編	5 堰	4 可動堰 本体工	8 9 10 11 12 13 14		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 水叩工 開門工 土砂吐工	基 準 高 ∇	± 30	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						厚 さ t	-20				
						幅 w	-30				
						高 さ h	± 30				
						延 長 L	-50				
2 河川編	5 堰	5 固定堰 本体工	8 9 10		堰本体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ∇	± 30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所にて測定。			
						厚 さ t	-20				
						幅 w	-30				
						高 さ h	± 30				
						堰長 L	$L < 20m$				-50
							$L \geq 20m$				-100

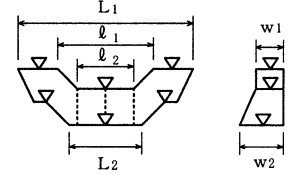
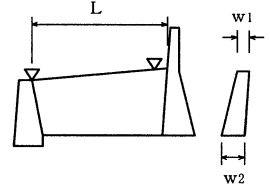
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
河川編	5 堰	6 魚道工	3		魚道本体工	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 （なお、製品使用の場合の製品寸法は、規格証明書等による）		
						厚さ t_1, t_2	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h_1, h_2	-30			
						延長 L	-200			
2 河川編	6 排水機場	3 機場本体工	6		本体工	基準高 ∇	± 30	図面の表示箇所で測定。		
						厚さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h_1, h_2	± 30			
						延長 L	-50			
2 河川編	6 排水機場	3 機場本体工	7		燃料貯油槽工	基準高 ∇	± 30	図面の表示箇所で測定。		
						厚さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h	± 30			
						延長 L	-50			

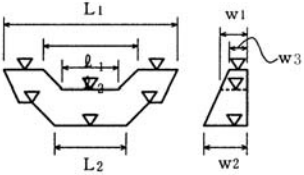
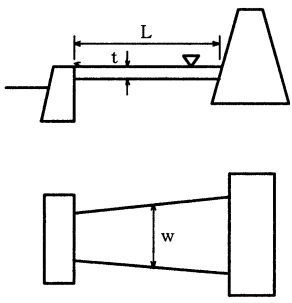
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
2 河川編	6 排水機場	4 沈砂池工	7		コンクリート床版工	基準高 ∇	± 30	図面の表示箇所 で測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h	± 30			
						延 長 L	-50			
2 河川編	7 床止め・床固め	3 床止め工	6	1	本體工 (床固め本體工)	基準高 ∇	± 30	図面に表示してある箇所 で測定。		
						天 端 幅 w_1	-30			
						堤 幅 w_2	-30			
						堤 長 L_1, L_2	-100			
						水通し幅 l_1, l_2	± 50			
2 河川編	7 床止め・床固め	3 床止め工	8	2	水叩工 (巨石張り)	基準高 ∇	± 500	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						法 長 l	-200			
						延 長 L	-200			

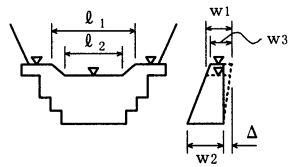
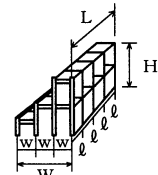
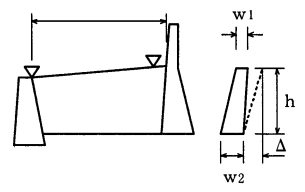
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
2 河川編	7 床止め・床固め	4 床固め工	5		垂直壁工	基準高 ∇	± 30	図面に表示してある箇所で測定。		
						天端幅 w_1	-30			
						堤幅 w_2	-30			
						堤長 L_1, L_2	-100			
						水通し幅 l_1, l_2	± 50			
2 河川編	7 床止め・床固め	4 床固め工	6		側壁工	基準高 ∇	± 30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
						天端幅 w_1	-30			
						堤幅 w_2	-30			
						長さ L	-100			
						2 河川編	7 床止め・床固め			
厚さ t	-30									
幅 w	-100									
延長 L	-100									

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 砂防編	1 砂防えん堤	4 コンクリートえん堤工	3 4		コンクリートえん堤本体工 コンクリート副えん堤工	基 準 高 ∇	± 30	図面の表示箇所にて測定。 注水検査は、打ち上げリフト毎に天端、表法面、裏法面、水通露出部分から原則として2箇所以上選定		
						天端部 堤 幅 w_1, w_3 w_2	-30			
						水通しの幅 l_1, l_2	± 50			
						堤 長 L_1, L_2	-100			
						注 水 検 査				
3 砂防編	1 砂防えん堤	4 コンクリートえん堤工	5		コンクリート側壁工	基 準 高 ∇	± 30	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
						幅 w_1, w_2	-30			
						長 さ L	-100			
3 砂防編	1 砂防えん堤	4 コンクリートえん堤工	7		水叩工	基 準 高 ∇	± 30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所にて測定。 厚さは目地及びその中間点にて測定。		注水検査は3箇所を標準とする。(厚さ測定と同時に進めてもよい。)
						幅 w	-100			
						厚 さ t	-30			
						延 長 L	-100			
						注 水 検 査				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 砂防編	1 砂防えん堤	5 鋼製えん堤工	4	1	鋼製えん堤本体工 (不透過型)	水 通 し 部	堤 高 ▽	±50	1. 図面の表示箇所にて測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		
							長 さ l	±100			
							幅 w_1, w_3	±50			
							下流側倒れ △	±0.02H			
						袖 部	袖 高 ▽	±50			
							幅 w_2	±50			
下流側倒れ △	±0.02H										
3 砂防編	1 砂防えん堤	5 鋼製えん堤工	4	2	鋼製えん堤本体工 (透過型)	堤長 L (m) 格	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。	 図 a 格子形 鋼製砂防ダム	格：格子型鋼製砂防えん堤 A：鋼製スリットえん堤A型 B：鋼製スリットえん堤B型	
						堤長 l (m) 格・B	±(10+ l /10)				
						堤幅 W (m) 格	±30				
						堤幅 w (m) 格・B	±(10+w/10)				
						堤幅 w (m) A	±5				
						高さ H (m) 格・B	±(10+H/10)				
						高さ H (m) A	±5				
3 砂防編	1 砂防えん堤	5 鋼製えん堤工	5		鋼製側壁工	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。			
						長 さ L	±100				
						幅 w_1, w_2	±50				
						下流側倒れ △	±0.02H				
						高 さ h	$h < 3$ m				-50
$h \geq 3$ m	-100										

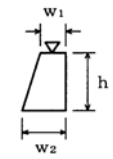
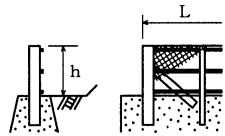
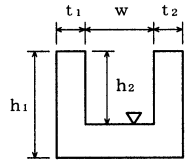
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	1	5	9		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3	3	4	7		井桁ブロック工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 1施工箇所毎			
						法長 ϕ	高 さ $h < 3 \text{ m}$				-50
							高 さ $h \geq 3 \text{ m}$				-100
						厚 さ t_1, t_2, t_3	-50				
						延 長 L_1, L_2	-200				

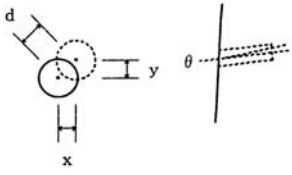
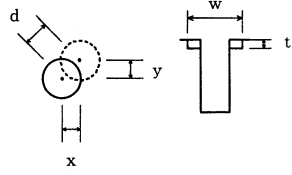
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	3	4	8		小型擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
						幅 w	-30			
						高 さ h	-50			
						延 長 L	-200			
3	3	4	9		落石防護工	高 さ h	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
						延 長 L	-200			
3	3	5	2		山腹集水路・排水路工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による）		
						厚 さ t_1, t_2	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h_1, h_2	-30			
						延 長 L	-200			

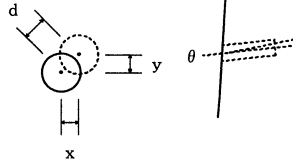
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 砂 防 編	3 斜 面 対 策	5 山 腹 水 路 工	3		山腹明暗渠工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇 所。（なお製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による）		
						厚 さ t_1, t_2	-20			
						幅 w	-30			
						幅 w_1, w_2	-50			
						高 さ h_1, h_2	-30			
						深 さ h_3	-30			
						延 長 L	-200			
3 砂 防 編	3 斜 面 対 策	5 山 腹 水 路 工	4		山腹暗渠工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇 所。（なお製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による）		
						幅 w_1, w_2	-50			
						深 さ h	-30			
						延 長 L	-200			
3 砂 防 編	3 斜 面 対 策	5 山 腹 水 路 工	5		集水樹工	基 準 高 ∇	± 30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高 さ h_1, h_2	-30			

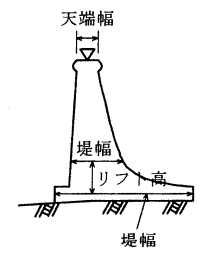
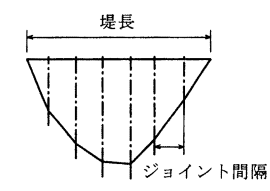
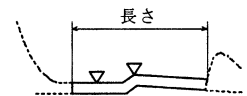
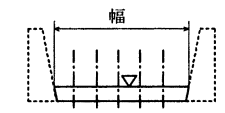
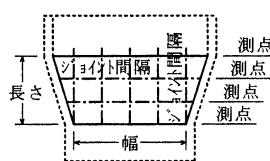
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 砂 防 編	3 斜 面 対 策	6 地 下 水 排 除 工	3		集排水ボーリング工	削 孔 深 さ l	設計値以上	全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						配 置 誤 差 d	100			
						せん孔方向 θ	± 2.5 度			
3 砂 防 編	3 斜 面 対 策	6 地 下 水 排 除 工	4		集水井工	基 準 高 ∇	± 50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						偏 心 量 d	150			
						長 さ L	-100			
						巻 立 て 幅 w	-50			
						巻 立 て 厚 さ t	-30			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	3	8	5		合成杭工	基 準 高 ∇	± 50	全数測定。		
						偏 心 量 d	D/4以内 かつ100以内			
3	3	8	6	7	抑止アンカー工 PC法枠工	削 孔 深 さ l	設計値以上	全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						配 置 誤 差 d	100			
						せ ん 孔 方 向 θ	± 2.5 度			

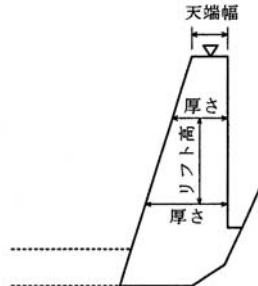
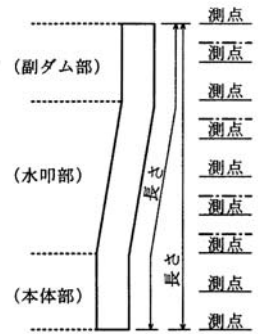
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (本体)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（越流部堤頂高を含む）は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 （注）堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。（堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む） ③ジョイント間隔（横継目）は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。 3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督職員の指示による。 ②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督職員の指示による。	  (注) 1. j : ジョイント	
						天 端 幅	±20			
						ジョイント間隔	±30			
						リ フ ト 高	±20			
						堤 幅	-30, +50			
						堤 長	-100			
4 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (水叩)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（敷高）、ジョイント間は各ジョイント、各測点の交差点部を測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督職員の指示による。	  	
						ジョイント間隔	±30			
						幅	±40			
						長 さ	-100, +60			

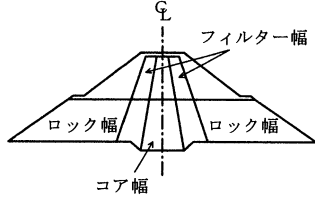
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (副ダム)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。		
						ジョイント間隔	±30			
						リ フ ト 高	±20			
						堤 幅	-30, +50			
						堤 長	±40			

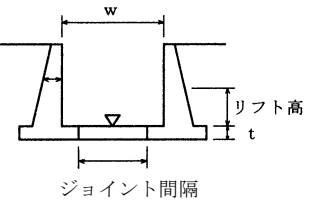
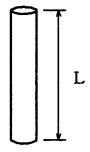
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。 (注)リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。	 	
						ジョイント間隔	±20			
						リ フ ト 高	±20			
						長 さ	±100			
						厚 さ	±20			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	5		コアの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種（タンピングローラ）の場合		
						外 側 境 界 線	-0, +500			
4 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎に測定。		
						外 側 境 界 線	-0, +1000			
						盛 立 幅	-0, +1000			
4 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	-100	各測点について盛立5m毎に測定。		
						外 側 境 界 線	-0, +2000			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4 ダム 編	2 フィル ダム				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ∇	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 1回/1施工箇所		
						ジョイント間隔	±30			
						厚 さ t	±20			
						幅 w	±40			
						リフト高さ	±20			
						長 さ L	±100			
4 ダム 編	3 基礎 グラウ チング	3 ボー リング 工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行うカーテングラウト に適用する。		
						配 置 誤 差	100			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	1	4	5	6	アンカー工 プレキャスト法枠工	削孔深さ l	設計値以上	全数（任意仮設は除く）	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						配置誤差 d	100			
						せん孔方向 θ	±2.5度			

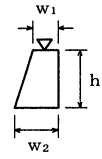
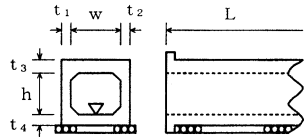
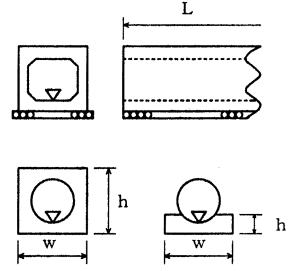
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5	1	5	5		現場打擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎 100mにつき1箇所の割合で測定する。			
						厚 さ t	-20				
						裏 込 厚 さ	-50				
						幅 w_1, w_2	-30				
						高 さ h	$h < 3\text{ m}$				-50
							$h \geq 3\text{ m}$				-100
						延 長 L	-200				
注水検査											
5	1	5	6		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎			
						延 長 L	-200				


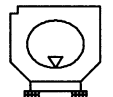
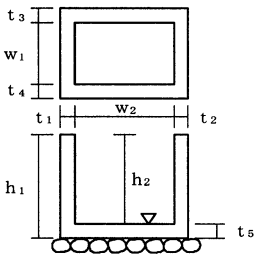
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5	1	5	7		補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						高さ h	$h < 3\text{ m}$				-50
							$h \geq 3\text{ m}$				-100
						鉛直度 Δ	$\pm 0.03\text{ h}$ かつ ± 300 以内				
						控え長さ	設計値以上				
						延長 L	-200				
5	1	5	8		井桁ブロック工	基準高 ∇	± 50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法長 \varnothing	高さ $h < 3\text{ m}$				-50
							高さ $h \geq 3\text{ m}$				-100
						厚さ t_1, t_2, t_3	-50				
						延長 L_1, L_2	-200				

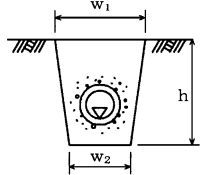
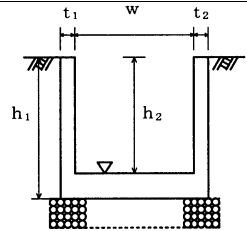
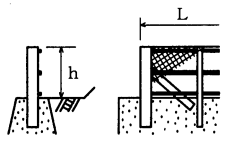
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	9		小型擁壁工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎			
						幅 w_1, w_2	-30				
						高 さ h	-50				
						延 長 L	-200				
5 道 路 編	1 道 路 改 良	7 カ ル バ ー ト 工	6		現場打カルバート工	基 準 高 ∇	± 30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。			
						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20				
						幅（内法） w	-30				
						高 さ h	± 30				
						延長 L	L < 20m				-50
							L \geq 20m				-100
5 道 路 編	1 道 路 改 良	7 カ ル バ ー ト 工	7		プレキャストカルバート工 （プレキャストボックス工） （プレキャストパイプ工）	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打のある場合。 1施工箇所毎			
						※幅 w	-50				
						※高 さ h	-30				
						延 長 L	-200				

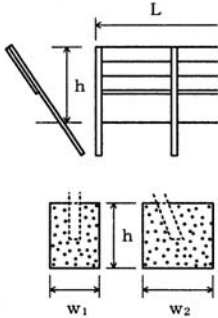
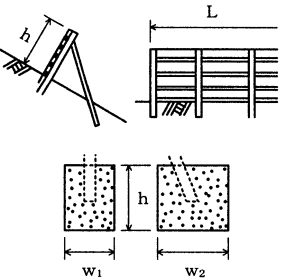
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	2		側溝工 (プレキャストU型側溝) (コルゲートフリーム) (自由勾配側溝)	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、 施工延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	3		管渠工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、 施工延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	4		集水桝・マンホール工	基 準 高 ∇	± 30	1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高さ h_1, h_2	-30			

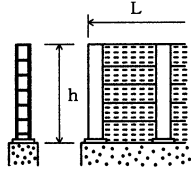
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	5		地下排水工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 1 施工箇所毎		
						幅 w_1, w_2	-50			
						深 さ h	-30			
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	1 道 路 改 良	8 小 型 水 路 工	7		現場打（組立）水路工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 1 施工箇所毎		
						厚 さ t_1, t_2	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h_1, h_2	-30			
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	4		落石防止網工	幅 w	-200	1 施工箇所毎		
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	5		落石防護柵工	高 さ h	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 1 施工箇所毎		
						延 長 L	-200			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5	道路編	1	9	6	防雪柵工	高 さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎			
						延 長 L	-200				
						基礎	幅 w ₁ , w ₂				-30
							高 さ h				-30
5	道路編	1	9	7	雪崩予防柵工	高 さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎 全数			
						延 長 L	-200				
						基礎	幅 w ₁ , w ₂				-30
							高 さ h				-30
						アンカー長 ℓ	打 込 み ℓ				-10%
							埋 込 み ℓ				-5%

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5	道路編	1	10	5	遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、 施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎			
						高さ h	-30				
						延長 L	-200				
5	道路編	1	10	6	遮音壁本体工	支柱	間 隔 w	±15	施工延長5スパンにつき1箇所 1施工箇所毎		
							ず れ a	10			
							倒 れ d	$h \times 0.5\%$			
						高 さ h	+30, -20				
						延 長 L	-200				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
5 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長40m毎に1箇所を割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長40m毎に1箇所を割に測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						厚 さ	-45	-45	-15	-15			
						幅	-50	-50	—	—			
5 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50	-50	—	—			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50	-50	-	-			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50	-50	-	-			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	-25	-25	-	-			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
5 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	6	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² 毎に1個の割でコアを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未滿あるいは施工面積が2,000m ² 未滿。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未滿の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-25	-25	-	-			
						平 坦 性	-		3m ² プロフィールメータ(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
5 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	-	-	基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						厚 さ	-45	-45	-15	-15			
						幅	-50	-50	-	-			
5 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50	-50	-	-			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
5 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50	-50	-	-			
5 道 路 編	2 舗 装 工	3 舗 装 工	7	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50	-50	-	-			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未滿あるいは施工面積が2,000m ² 未滿。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未滿の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-25	-25	-	-			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² 毎に1個の割でコアを採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-25	-25	-	-			
						平 坦 性	-	-	3mプロファイルメータ(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	-			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアを採取して測定。		
						幅	-50	-50	-	-			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	2	グー ス ア ス フ ア ル ト 舗 装 工 (基 層 工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-25	-25	-	-			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	3	グー ス ア ス フ ア ル ト 舗 装 工 (表 層 工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは1,000m ² 毎に1個の割でコアを採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-25	-25	-	-			
						平 坦 性	-		3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	基準高は延長40m毎に1箇所を割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長40m毎に1箇所を割に測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m ² 以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						厚 さ	-45		-15			
						幅	-50		—			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50		—			

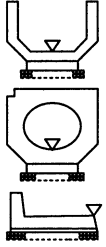
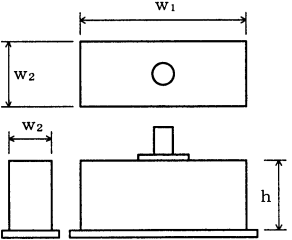
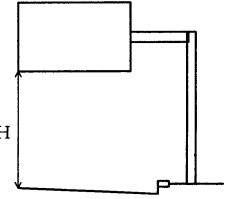
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2000m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2000m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	コアーは密度測定供試体と兼ねることができる。
						幅	-50		—			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	-12	- 3	幅は、延長40m毎に1箇所を割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。		
						幅	-25		—			

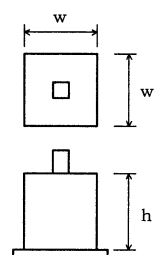
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50		—	基準高は片側延長40m毎に1箇所割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長40m毎に1箇所測定。 ※両端部2点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	コアは密度測定供試体と兼ねることができる。
						厚 さ	t < 15cm	-30	-10			
							t ≥ 15cm	-45	-15			
						幅	-100		—			
5 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	-9	-3	幅は、片側延長40m毎に1箇所割で測定。厚さは、片側延長200m毎に1箇所コアを採取して測定。			
						幅	-25	—				

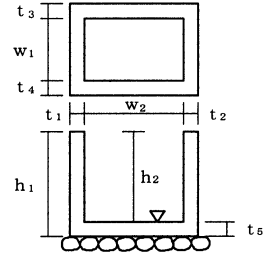
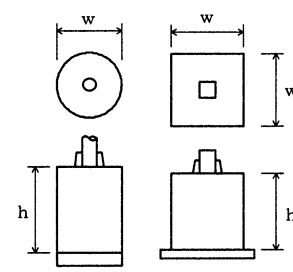
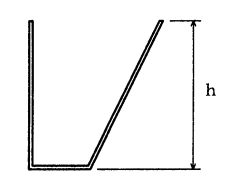
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	2	3	側溝工 (L型街渠工) (L0型街渠工) (プレキャストU型側溝工) (管(函)渠型側溝工) 管渠工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、 施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 1箇所/1施工箇所		
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	5		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、 延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 1箇所/1施工箇所		
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	5	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30	基礎一基毎		
						高 さ h	-30			
5 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	5	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1箇所/1基		

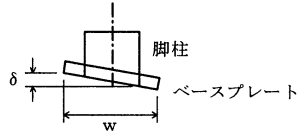
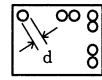
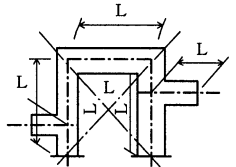
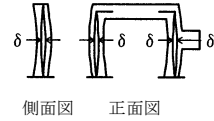
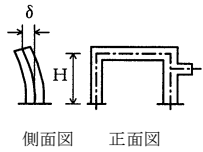
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	8		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20	1 箇所 / 1 踏掛版		
						各 部 の 厚 さ	±20	1 箇所 / 1 踏掛版		
						各 部 の 長 さ	±30	1 箇所 / 1 踏掛版		
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	±20	全数		
						厚 さ				
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	±20		
					ア ン カ ー 長		±20	全数		
					5 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	9		
幅 w	-30									
延 長 L	-200									
5 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	9	2	組立歩道工 (支柱基礎工)	幅 w	-30	1 箇所 / 1 施工箇所		
						高 さ h	-30			

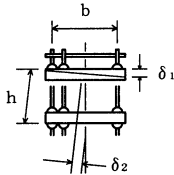
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	10	1	ケーブル配管工	基 準 高 ∇	± 30	接続部間毎に1箇所 接続部間毎で全数		
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	10	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ∇	± 30	1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高さ h_1, h_2	-30			
5 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	11		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1箇所/1施工箇所		
						高 さ h	-30			
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	2		刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	$\pm 2 \dots\dots$ $h \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < h \leq 2.0$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						外周長L (m)	$\pm (10+L/10)$			

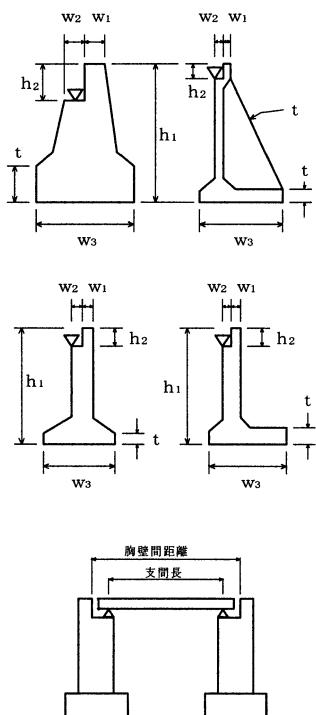
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
5	3	3	3		鋼製橋脚製作工	部	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。			
							材	ベースプレート	孔の位置	± 2	全数を測定。	
						孔の径		0 ~ 5	全数を測定。			
						仮	組	柱の中心間隔、対角長L (m)	± 5... L ≤ 10m ± 10... 10 < L ≤ 20m ± (10 + (L - 20)/10) ...20m < L	両端部及びび片持ばり部を測定。		
								立	はりのキャンバー及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。	
時	柱の鉛直度 δ (mm)	10...H ≤ 10 H/1,000 ...H > 10	各柱及びび片持ばり部を測定。									

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	4		アンカーフレーム製作工	上 面 水 平 度 δ_1 (mm)	$b/500$	軸心上全数測定。		
						鉛 直 度 δ_2 (mm)	$h/500$			
						高 さ h (mm)	± 5			
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	5		仮設材製作工	部 材	$\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
5	道路編	3	橋梁下部	4	橋台工	8	躯体工	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 			
								厚 さ t	-20				
								天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10				
								天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10				
								敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50				
								高 さ h_1	-50				
								胸壁の高さ h_2	-30				
								天 端 長 l_1	-50				
								敷 長 l_2	-50				
								胸壁間距離 l	± 30				
								支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50				
								アンカーボルトの箱抜き規格値	鋼製支承			計画高	$+10 \sim -30$
												平面位置	± 20
												アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下
								アンカーボルトの箱抜き規格値	ゴム支承			計画高	$+10 \sim -20$
												平面位置	± 20
												アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下

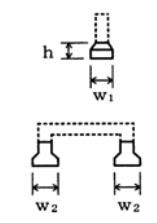
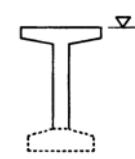
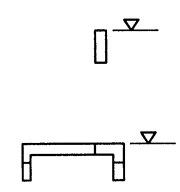
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
5	3	5	9		RC躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				
						厚 さ t	-20					
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-20					
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	-50					
						高 さ h	-50					
						天 端 長 l_1	-50					
						敷 長 l_2	-50					
						橋脚中心間距離 l	± 30					
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50					
						アンカーボルトの箱抜き規格値	鋼製支承				計画高	+10~-30
											平面位置	± 20
											アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下
							ゴム支承				計画高	+10~-20
											平面位置	± 20
											アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	9	2	R C 躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						厚 さ t	-20			
						天 端 幅 w_1	-20			
						敷 幅 w_2	-20			
						高 さ h	-50			
						長 さ l	-20			
						橋脚中心間距離 l	± 30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50			
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 w (橋軸方向)	-50			
						高 さ h	-50			
						長 さ l	-50			

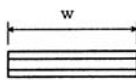
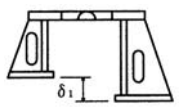
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 w_1, w_2	-50			
						高 さ h	-50			
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 l	± 30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50			
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 l	± 30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50			
5 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐侯性鋼材(裸使用)の場合		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	3	6	12		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定する。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

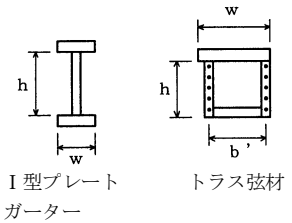
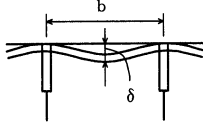
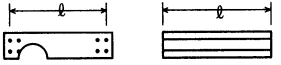
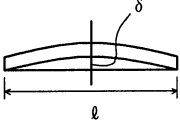
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	4		検査路製作工	部	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						材						
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	5		鋼製伸縮継手製作工	部	部材長 w (m)	$-5 \sim +10$ $\dots w \leq 10$ $-5 \sim +(5 + w/2)$ $\dots w > 10$	製品全数を測定。			
						材						
						仮	組合せる伸縮装置との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ± 4	両端及び中央部付近を測定。			
						組						
立												
時												
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	6		鋼製耐震連結装置製作工	部	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						材						
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	7		鋼製排水管製作工	部	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						材						

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	8		橋梁用防護柵製作工	部	部材長 l (m) $\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						材				
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部	部材長 l (m) $\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						材				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要					
								プレートガーター	トラス・アーチ等							
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10		横断歩道橋製作工	部 材 精 度	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	± 2 …… w ≤ 0.5	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型プレート ガーター トラス弦材</p>						
								± 3 …… 0.5 < w ≤ 1.0				床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。				
								± 4 …… 1.0 < w ≤ 2.0								
								± (3 + w/2) 2.0 < w								
								板の 平 面 度 δ (mm)					プレートガーター及びトラス等の部材の腹板	h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。	
								箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート					b / 150			
								フランジの直角度 δ (mm)						w / 200		
部 材 長 ℓ (m)	プレートガーター	± 3 …… ℓ ≤ 10	原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。													
		± 4 …… ℓ > 10														
	トラス、アーチなど	± 2 …… ℓ ≤ 10														
		± 3 …… ℓ > 10														
圧縮材の曲がり δ (mm)		ℓ / 1000			主要部材全数を測定。											

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要	
								プレートガーター	トラス・アーチ等			
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10		横断歩道橋製作工	仮 組 立 精 度	全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$	主桁、主構全数を測定。			
							主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。			
							主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2)$ $\cdots h > 5$	—	両端部及び中心部を測定。		
							主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots$ $L \leq 100$ $25 \cdots L > 100$	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。			
							主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots$ $20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots$ $40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots$ $80 < L \leq 200$	各主桁について10~12m間隔を測定。	各主構の各格点を測定。		
							主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	10	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			
							主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。	支点及び支間中央付近を測定。		
							現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合			

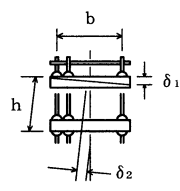
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
5	4	3	11	1	鋳造費 (金属支承工)	上下部構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0	製品全数を測定。				
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ					
								≦1000mm				±1	
								センターボスを基準にした孔位置のずれ					
								>1000mm				±1.5	
							アンカーボルト孔	孔の直径				≦100mm	+3 -1
												>100mm	+4 -2
								孔の中心距離				JIS B 0412 並級	
							センターボス	ボスの直径				+0 -1	
								ボスの高さ				+1 -0	

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要														
5	道	路	編	4	鋼	橋	上	部	3	工	場	製	作	工	11	1	鑄造費 (金属支承工)	上杣の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0412 中級	製品全数を測定。				
																		全移動量 ℓ	$\ell \leq 300\text{mm}$				± 2	
																			$\ell > 300\text{mm}$				$\pm \ell \leq 100$	
																		組立絶対高さH	上、下面加工仕上げ				± 3	
																			コンクリート構造用				$H \leq 300\text{mm}$	± 3
																							$H > 300\text{mm}$	(H/200+3)小数点以下切り捨て
																		普通寸法	鑄放し長さ寸法				JIS B 0412 並級	
鑄放し肉厚寸法		JIS B 0412 並級																						
機械加工寸法		JIS B 0405 粗級																						
5	道	路	編	4	鋼	橋	上	部	3	工	場	製	作	工	11	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w, L, D ≤ 500	0 ~ + 5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ(t)の最大相対誤差				
																		500 < w, L, D $\leq 1500\text{mm}$	0 ~ + 1 %					
																		1500 < w, L, D	0 ~ + 15					
																		厚さ t	$t \leq 20\text{mm}$				0 ~ + 1	
																			20 < t ≤ 160				0 ~ + 5 %	
																			160 < t				0 ~ + 8	
																		平 面 度					1	

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	12		アンカーフレーム製作工	仮 組 立 時	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$	軸心上全数測定。 	
							鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$		
							高さ h (mm)	± 5		
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	13		仮設材製作工	部 材	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots \dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	4 鋼 橋 架 設 工	4 5 6 7 8 9		架設工 (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	全 長・支 間	—	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁、主構を全数測定。		
						桁・トラスの中心間距離	—			
						そ り	$L \leq 40m \pm 25$ $L > 40m \pm \{25 + (L - 40)\}$			
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	4 鋼 橋 架 設 工	10		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1 、 δ_2 (mm)	5 ※ ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	4	5	3		現場塗装工	塗 膜 厚	a ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	6 床 版 工	2		床版工	基 準 高 ∇	± 20	基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10mmに1箇所測定。 （床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）			
						厚 さ t	+20~-10				
						幅 w	± 30				
						鉄筋の有効高さ	± 10				
						鉄筋のかぶり	設計値以上				
						鉄 筋 間 隔	± 20 +10 (有効高さがマイナスの場合)				1径間当たり3断面（両端及び中央）測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	7 支 承 工	2	1	支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ	± 5	1径間当たり3箇所（両端及び中央）測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。			
						可動支承の橋軸 方 向 の ず れ	± 10				
						支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	$4 + 0.5 \times (B - 2)$				
						下 沓 の 水 平 度	橋 軸 方 向				1/100
							橋 軸 直 角 方 向				1/100
						同 一 支 承 線 上 の 可 動 支 承 の ず れ の 相 対 誤 差	5				支承全数を測定。 B：支承中心間隔（m）
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	7 支 承 工	2	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ	± 5	1径間当たり3箇所（両端及び中央）測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。			
						支 承 中 心 間 隔	± 10				
						支 承 の 水 平 度	橋 軸 方 向				1/300以下、 5mm以下
							橋 軸 直 角 方 向				
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。											

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	2	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	舗装面に対し 0~-2	両端及び中央部付近を測定。		
						表 面 の 凹 凸	3			
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0~-2			
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	2	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイ ント)	高 さ 据 付 け 高 さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。		
						高 さ 車線方向各点誤差 の相対差	3			
						表 面 の 凹 凸	3			
						歯型板面の歯咬み合い部 の高低差	2			
						縦 方 向 間 隔	±2			
						横 方 向 間 隔	±5			
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0~-2			
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	+20~-10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						地覆の高さ h	+20~-10			
						有効幅員 w_2	+30~0			
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅	+10~-5	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						高 さ	±10			

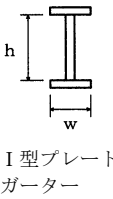
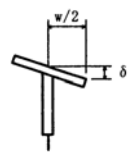
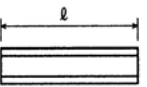
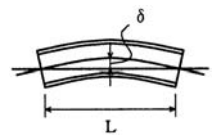
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。		
						高 さ	±4			
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	5		橋脚フーチング工 (I型) (T型)	基 準 高	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						フーチング幅 w (橋軸方向)	-50			
						フーチングの高さ h	-50			
						フーチング長 l	-50			

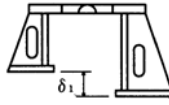
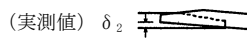
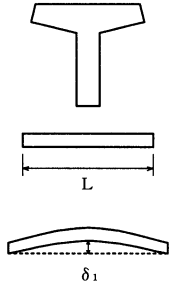
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	6		歩道橋架設工	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁を全数測定。		
						桁・トラスの中心間距離	—			
						そ	L ≤ 40m … ± 25			
						り	L > 40m… ± {25 + (L - 40)}			
5 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	7		現場塗装工（歩道橋）	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。		

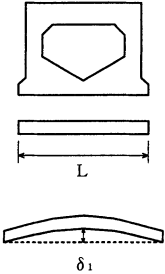
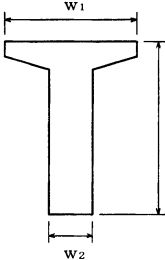
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	2		プレビーム用桁製作工	部 材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \dots 2.0 < w$	各支点及び各支間中央付近を測定。				
							フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$				各支点及び各支間中央付近を測定。	
							部材長 l (m)	$\pm 3 \dots l \leq 10$ $\pm 4 \dots l > 10$				原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	
						仮組立時 主桁のそり	$-5 \sim +5$ $\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\dots 20 < L \leq 40$	各主桁について10~12m間隔を測定。					
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	3		橋梁用防護柵製作工	部 材	部 材 長 l (m)	$\pm 3 \dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。				

単位: mm

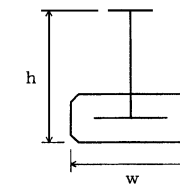
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
5	道	路	編	3	4	鋼製伸縮継手製作工	部材長 w (m)	-5 ~ +10 … $w \leq 10$ -5 ~ + (5 + $w/2$) … $w > 10$		製品全数を測定。			
							仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ_1 (mm)			設 計 値 ± 4		
								フィンガーの食い違い δ_2 (mm)			± 2		 (実測値) δ_2
5	道	路	編	2	1	プレテンション桁購入工 (けた橋)	桁長 L (m)	$\pm L/1,000$		桁全数について測定する橋桁のそりは中央の値とする。なお、JIS製品の場合はJIS認定工場の成績表に代えることができる。JIS製品以外はJIS製品に準ずる。			
							断面の外形寸法	± 5					
							橋 桁 の そ り δ_1	± 8					
							横方向の曲がり δ_2	± 10					

単位:mm

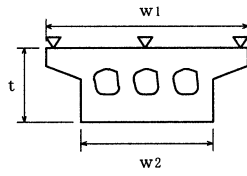
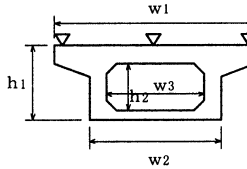
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	2	2	プレテンション桁購入工 (スラブ橋)	桁長 L (m)	±10… L ≤ 10m ±L/1,000… L > 10m	桁全数について測定する橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS製品の場合はJIS認定工場の成績表に代えることができる。 JIS製品以外はJIS製品に準ずる。		
						断面の外形寸法	±5			
						橋桁のそり δ_1	±8			
						横方向の曲がり δ_2	±10			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	3		ポストテンションT (I) 桁製作工	幅 (上) w_1	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ : スパン長		
						幅 (下) w_2	±5			
						高 さ h	+10 -5			
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm以内			
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			

単位: mm

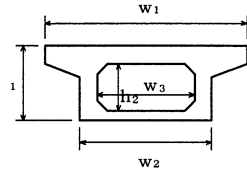
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	4		プレキャストブロック購入工	桁 長 l	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所にて測定。		
						断面の外形寸法 (mm)	—			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	5		プレキャストブロック桁組立工	桁 長 l スパン長	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots \pm (l - 5)$ かつ -30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 l : スパン長		
						横方向最大タワミ	$0.8l$			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	6		プレビーム桁製作工	幅 w	± 5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 l : スパン長		
						高 さ h	+10 -5			
						桁 長 l スパン長	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots$ $\pm (l - 5)$ かつ -30mm以内			
						横方向最大タワミ	$0.8l$			



単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	7 8 9		P Cホー スラ ブ製 作工 R C場 所打 ホー スラ ブ製 作工 P C版 桁製 作工	基 準 高	±20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり 両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央 部の3箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 l ：スパン長		
						幅 w_1, w_2	+30~-5			
						厚 さ t	+20~-10			
						桁 長 l スパン長	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots \pm (l - 5)$ かつ -30mm以内			
						横方向最大タワミ	$0.8l$			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	10 11		P C箱 桁製 作工 P C片 持桁 桁製 作工	基 準 高	±20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり 両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央 部の3箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 l ：スパン長		
						幅（上） w_1	+30~-5			
						幅（下） w_2	+30~-5			
						内空幅 w_3	±5			
						高 さ h_1	+10 -5			
						内空高さ h_2	+10 -5			
						桁 長 l スパン長	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots \pm (l - 5)$ かつ -30mm以内			
						横方向最大タワミ	$0.8l$			

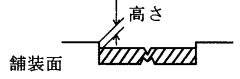
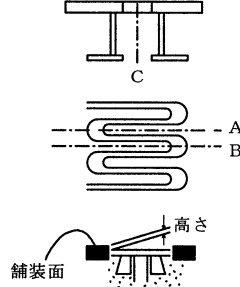
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	12		P C 押し箱桁製作工	幅 (上) w_1	+30~-5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 l : スパン長		
						幅 (下) w_2	+30~-5			
						内 空 幅 w_3	± 5			
						高 さ h_1	+10 - 5			
						内空高さ h_2	+10 - 5			
						桁 長 l スパン長	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots$ $\pm (l - 5)$ かつ -30mm以内			
						横方向最大タワミ	$0.8l$			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	5 コ ン ク リ ー ト 橋 架 設 工	2 3		架設工 (クレーン架設) (架設桁架設)	全 長・支 間	—	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁を全数測定。		
						桁の中心間距離	—			
						そ り	—			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	5 コ ン ク リ ー ト 橋 架 設 工	4 5		架設工支保工 (固定) (移動)	全 長・支 間	—	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁を全数測定。		
						桁の中心間距離	—			
						そ り	—			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	5 コ ン ク リ ー ト 橋 架 設 工	6 7		架設工 (片持架設) (押し架設)	全 長 ・ 支 間	—	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁を全数測定。		
						桁の中心間距離	—			
						そ り	—			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 床 版 ・ 横 組 工	2		床版・横組工	基 準 高 ∇	± 20	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10mmに1箇所測定。(床版の厚さは、型枠検査をもって代える。) 1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。 1径間当たり3箇所(両端及び中央)測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。		
						幅 w	± 30			
						厚 さ t	+20~-10			
						鉄筋の有効高さ	± 10			
						鉄筋のかぶり	設計値以上			
						鉄 筋 間 隔	± 20 +10 (有効高さがマイナスの場合)			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	7 支 承 工	2	1	支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ	± 5	支承全数を測定。		
					可動支承の橋軸方向のずれ	± 10				
					支承中心間隔 (橋軸直角方向)	± 5				
		下 査 の 水 平 度			橋 軸 方 向	1/100				
					橋 軸 直 角 方 向	1/100				
					同一支承線上の可動支承のずれの相対誤差	5				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	7 支 承 工	2	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ	± 5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。			
						支 承 中 心 間 隔	± 10				
						支 承 の 水 平 度	橋 軸 方 向				1/300以下、 5mm以下
							橋 軸 直 角 方 向				
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	2	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	塗装面に対し 0～-2	両端及び中央部付近を測定。			
						表 面 の 凹 凸	3				
						仕 上 げ 高 さ	塗装面に対し 0～-2				
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	2	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高 さ	据 付 け 高 さ	± 3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隙は、両端、中央部の計3点。		
							車線方向各点 誤差の相対差	3			
						表 面 の 凹 凸	3				
						歯型板面の歯咬み 合い部の高低差	2				
						縦 方 向 間 隙	± 2				
						横 方 向 間 隙	± 5				
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～-2				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト (鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	+20~-10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						地覆の高さ h	+20~-10			
						有効幅員 w_2	+30~0			
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅	+10~-5	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						高 さ	±10			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要										
5 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	9		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。												
											6 ト ン ネ ル (N A T M)	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準（構造編）にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		
角 度	—																			
削 孔 深 さ	—																			
孔 径	—																			
					突 出 量	プレート下面から10cm以内														

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	3 4		覆工コンクリート工 側壁コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		
						幅 w (全幅)	-50			
						高さ h (内法)	-50			
						厚 さ t ₁ , t ₂	設計値以上			
						延 長 L	—			
5 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚 さ t	-30			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	6 イ ン パ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 幅は、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)~(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		
						厚さ t_1, t_2	設計値以上			
						延 長 L	—			
5 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	7 坑 内 付 帯 工	5		地下排水工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工につき2箇所。 1施工箇所毎		
						幅 w_1, w_2	-50			
						深 さ h	-30			
						延 長 L	-200			

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
5 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	4		坑門本體工	基 準 高 ∇	± 50	図面の主要寸法表示箇所にて測定。			
						幅 w_1, w_2	-30				
						高 さ h	$h < 3\text{ m}$				-50
							$h \geq 3\text{ m}$				-100
						延 長 L	-200				
5 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	5		明り巻工	基 準 高 (拱頂)	± 50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。			
						幅 w (全幅)	-50				
						高さ h (内法)	-50				
						厚 さ t	-20				
						延 長 L	—				

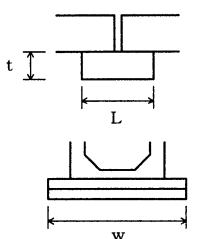
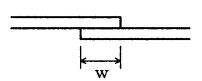
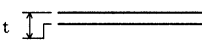
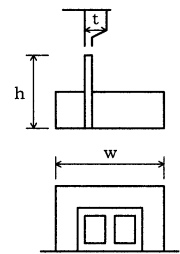
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	7 ト ン ネ ル (矢 板)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点①～⑩で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点①～⑩の巻厚測定を行う。 ただし、上部半断面先進工法の場合④～⑦については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) せん孔による巻厚の測定は図の①は40mに1箇所、②～③は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上のせん孔による測定を行う。 ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督職員の指示により間隔を拡げることができる。		
						幅 w (全幅)	-70			
						高さ h (内法)	-70			
						厚 さ t	-50			
						延 長 L	—			
5 道 路 編	7 ト ン ネ ル (矢 板)	5 覆 工	4		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚 さ t	-30			

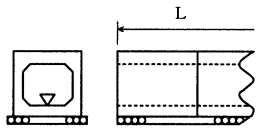
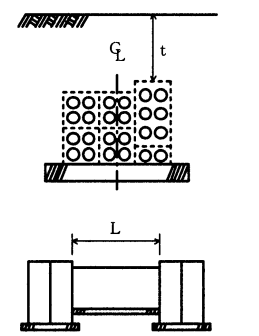
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	7 ト ン ネ ル (矢 板)	6 イ ン パ ー ト 工	3		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点(1)～(10)で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点(1)～(10)の巻厚測定を行う。 ただし、上部半断面先進工法の場合(4)～(7)については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) せん孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上のせん孔による測定を行う。 ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督職員の指示により間隔を拡げることができる。		
						厚 さ t_1, t_2	設計値以上			
						延 長 L	—			
5 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	2		現場打ち躯体工	基 準 高 ∇	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所測定。		
						厚 さ t	-20			
						内 空 幅 w	-30			
						内 空 高 h	±30			
						ブロック長 L	-50			

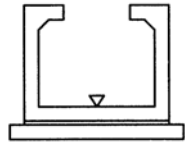
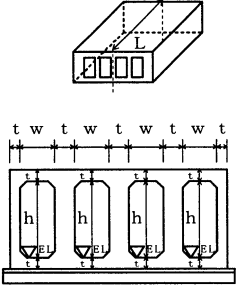
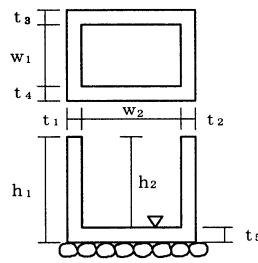
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	5		カ ラ ー 継 手 工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						幅 w	-20			
						長 さ L	-20			
5 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	6	1	防 水 工 (防 水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		
5 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	6	2	防 水 工 (防 水 保 護 工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		
5 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 ち 構 築 工	6	3	防 水 工 (防 水 壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						幅 w	±50			
						厚 さ t	-20			

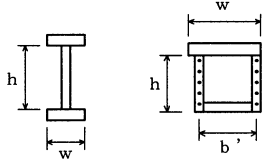
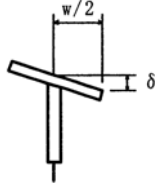
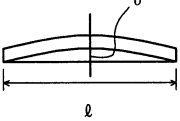
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	12 共 同 溝	6 ブ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。 延長：1施工箇所毎		
						延 長 L	-200			
5 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	3 電 線 共 同 溝 工	2		管路工	埋 設 深	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】		
						延 長 L	-200			

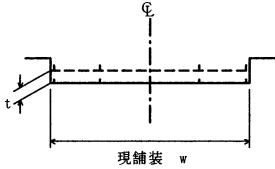
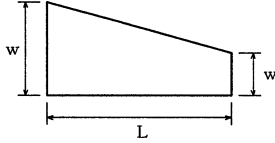
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	3 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工	基 準 高 ∇	± 30	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		
5 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	3 電 線 共 同 溝 工	4		現場打ちボックス工	基 準 高 ∇	± 30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	-20			
						内 空 幅 w	-30			
						内 空 高 h	± 30			
						ブロック長 L	-50			
5 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	4 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	基 準 高 ∇	± 30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高 さ h_1, h_2	-30			

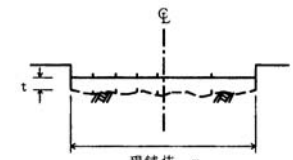
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
								プレートガーター	トラス・アーチ等		
5	16	3	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \dots\dots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \dots\dots 2.0 < w$	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型プレート ガーター</p> <p>トラス弦材</p>	
								床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
								主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
								圧縮材の曲がり	主要部材全数を測定。		

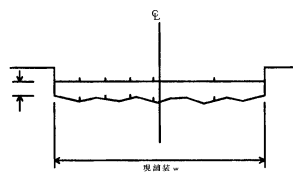
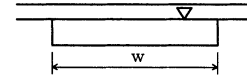
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
							個々の測定値(X)	平均の測定値(X ₁₀)				
5	16	4	3		路面切削工	厚さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。			
						幅 w	-25	-				
5	16	4	4		舗装打換え工	路盤工	厚さ t	該 当 工 種		各層毎1箇所/1施工箇所		
							幅 w	-50				
							延長 L	-100				
						舗設工	厚さ t	該 当 工 種				
							幅 w	-25				
							延長 L	-100				
5	16	4	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。			
						幅 w	-25	-				
						延長 L	-100					
						平坦性	-	3m ⁺ ロフィールメーター (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
							個々の測定値(X)	平均の測定値(X ₁₀)				
5	16	4	6		オーバーレイ工	厚さ t	-9		厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に1箇所割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅 w	-25					
						延長 L	-100					
						平坦性	—	3mプロフィールメーター(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下				
5	16	4	7		路上再生路盤工	路盤工	厚さ t	-30		幅は延長40m毎に1箇所割で測定。厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。		
							幅 w	-50				
							延長 L	-100				

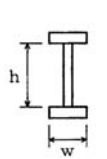
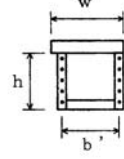
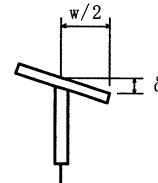
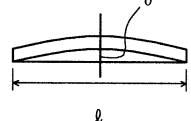
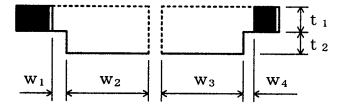
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₁₀)				
5	16	4	8		路上表層再生工	舗設工	厚さ t	- 9		幅は延長40m毎に1箇所の割で測定。厚さは、200m毎に、現舗装高と舗設後の基準高の差を、車線中心線、車線端及びその中心とする。		
							幅 w	- 25				
							延長 L	- 100				
							リペープの場合再生表層厚 t ₂	- 9				
							平坦性	-	2.4			
5	16	4	9		プレキャストRC舗装版工	基準高 ▽	± 20		施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下は1施工箇所につき2箇所。 なお、製品使用の場合は、製品寸法については規格証明書等による。			
						幅 w	± 30					
						延長 L	- 200					

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
							中規模以上	小規模以下				
5 道 路 編	16 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	10	1	歩道舗装修繕工 (歩道路盤工) (取合舗装路盤工) (路肩舗装路盤工)	基準高▽	±50		—	基準高は片側延長40m毎に一箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に一箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長40m毎に一箇所測定。 両端部2点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及びw基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚さ	t < 15cm	-30	-10			
							t ≥ 15cm	-45	-15			
						幅	-100		—			
5 道 路 編	16 道 路 修 繕	4 舗 装 修 繕 工	10	2	歩道舗装修繕工 (歩道舗装工) (取合舗装工) (路肩舗装工) (表層工)	厚さ	-9	-3	幅は、片側延長40m毎に一箇所の割で測定。厚さは、片側延長200m毎に一箇所コアを採取して測定。			
						幅	-25	—				
5 道 路 編	16 道 路 修 繕	5 道 路 構 造 物 修 繕 工	2		排水構造物修繕工	嵩上	厚さ t	-20		施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 取壊し寸法又は嵩上げ寸法が変化すれば、変化点毎に測定。		
							高さ h	-30				
							延長 L	-200				

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要				
								プレートガーター	トラス・アーチ等						
5 道路編	16 道路修繕	6 橋梁修繕工	7		鋼桁補強工	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。	I型プレート ガーター		トラス弦材 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。				
						腹板高 h (m)	$\pm 3 \dots$								
						腹板間隔 b' (m)	$0.5 < w \leq 1.0$			床組など					
							$\pm 4 \dots$								
			$1.0 < w \leq 2.0$	主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。										
			$\pm (3 + w / 2) \dots 2.0 < w$				主要部材全数を測定。								
			フランジの直角度 δ (mm)	w/200											
			圧縮材の曲がり δ (mm)	l/1000											
5 道路編	16 道路修繕	6 橋梁修繕工	8		伸縮継手修繕工 (ゴムジョイント)	厚さ t ₁ , t ₂	-20	伸縮継手の両端部及び中央部の3箇所を測定。		w ₁	w ₂	w ₃	w ₄		
						幅 w ₁ ~w ₄	-20								
						延長 L	設計値以上								

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
5	16	6	10	1	P C橋支承修繕工・鋼桁 支承修繕工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ	± 5	支承全数を測定。						
						可動支承の橋軸 方 向 の ず れ	± 10							
						支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	± 5							
						下 查 の 水 平 度	橋 軸 方 向				1 / 100			
							橋軸直角方向				1 / 100			
						同 一 支 承 線 上 の 可 動 支 承 の ず れ の 相 対 誤 差	5							
				2	P C橋支承修繕工・鋼桁 支承修繕工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ	± 5				支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台 座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。			
						支 承 中 心 間 隔	± 10							
						下 查 の 水 平 度	橋 軸 方 向							1 / 300以下、 5 mm以下
							橋軸直角方向							

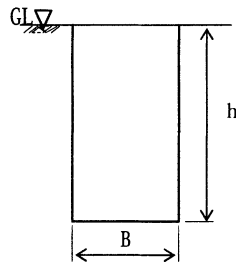
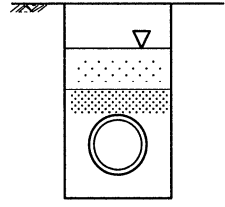
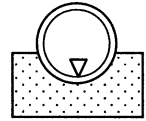
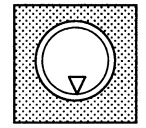
単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 公 園 関 係	1 公 園				園地張芝工	幅	-30	設計書の表示箇所を測定する。		
						長 さ	-50			
						平 積	-0			
6 公 園 関 係	1 公 園				植 栽 工	樹 高 (高木)	-0 上限値は特記仕様書	全本数を測定し、数量は全本数をチェックする。		
						幹 周 (高木)				
						葉 張 (高木)				
						枝 張 (高木)				
						数 量 (高低木)	-0			
6 公 園 関 係	1 公 園				園地整地工	基 準 高	±50	一定幅員でない場合は面積をチェックする。 200m ² に1カ所の割合で測定する。		
						幅	-30			
						厚 さ	-45			
						面 積	-0			
6 公 園 関 係	1 公 園				園地舗装工	幅	-30	一定幅員でない場合は面積をチェックする。 200m ² に1カ所の割合で測定する。		厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに10個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければならない。
						厚 さ	特記仕様書			
						面 積	-10			
6 公 園 関 係	1 公 園				運動施設工等 下 層 工 中 層 工	基 準 高 (下層工)	±40	特記仕様書		
						厚 さ	-40			
						面 積	-0			

単位:mm

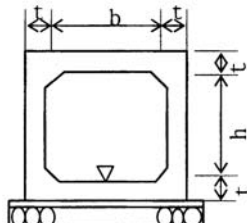
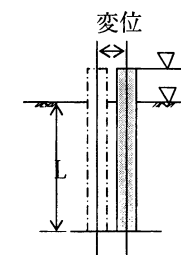
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 公園 関係	1 公園				運動施設工等 表層工	厚 さ	特記仕様書	特記仕様書		厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに10個の測定値の平均値（X10）について満足しなければならない。
						面 積	- 0			
6 公園 関係	1 公園				池 工	基 準 高	±100	設計書の表示箇所及び指示された箇所		
						厚 さ	- 20			
						深 さ	±100			
						面 積	- 0			
6 公園 関係	1 公園				フェンス工	高 さ	±50	高さは、20～50mに1箇所の割合で測定する。		

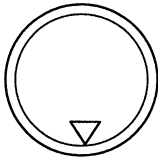
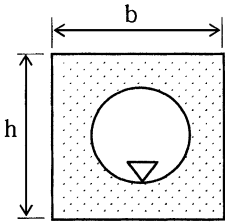
下水道（参考）

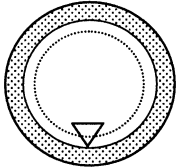
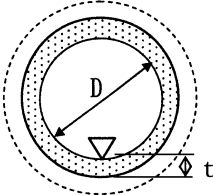
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管路土工	管路掘削	深さ h	±30	マンホール間ごとに1箇所測定する。		
					幅 B	-50			
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管路土工	管路埋戻	基準高▽	±30	マンホール間ごとに1箇所測定する。		
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管布設工	管布設 (自然流下管)	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位（水平）は、マンホール間の中央部及び両端部を測定する。		
					中心線の変位（水平）	±50			
					勾配	±20%			
					延長 ℓ	-ℓ/500 かつ -200	延長ℓはマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管布設工	矩形渠 (プレキャスト)	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)は、 施工延長20mにつき1箇所の割合で 測定する。		
					中心線の変位(水平)	±50			
					勾配	±20%			
					延長 l	$-\frac{l}{500}$ かつ -200	延長 l はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管布設工	圧送管	基準高▽	±30	施工延長40mにつき1箇所の割合で 測定する。		
					中心線の変位(水平)	±50			
					総延長	-200			
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管基礎工	砂基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部 等を測定する。		
					幅 B	-50			
					厚さ h	-30			
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管基礎工	碎石基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部 等を測定する。		
					幅 b	-50			
					厚さ h	-30			

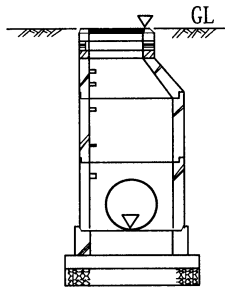
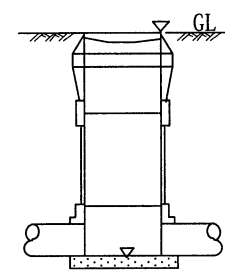
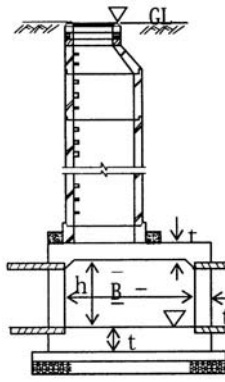
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管基礎工	コンクリート基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		
					幅 b	-30			
					厚さ h	-30			
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管基礎工	まくら土台基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管基礎工	はしご胴木基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		
					幅 b	-30			
					厚さ h	-30			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	管きよ工 (開削)	水路築造工	現場打水路	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位（水平）、幅、高さ、厚さは、1打設長ごとに両端部等を測定する。 1打設長が20m以上の場合は、20mにつき1箇所の割合で測定する。		
					中心線の変位（水平）	±50			
					幅 b	-30			
					高さ h	±30			
					厚さ t	-20			
					勾配	±20%			
					延長 ℓ	- ℓ/500かつ - 200			
総延長 L	-200								
下水道	管路	管きよ工 (開削)	管路土留工	鋼矢板土留	基準高▽	± 50	施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は、1施工箇所につき2箇所測定する。		任意仮設の場合は除く
					根入長 L	設計値以上			
					変位	100			

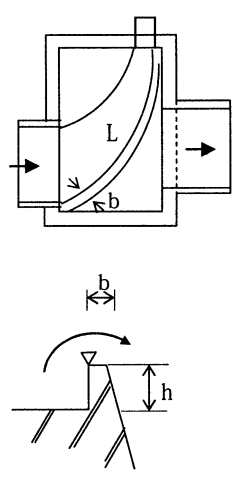
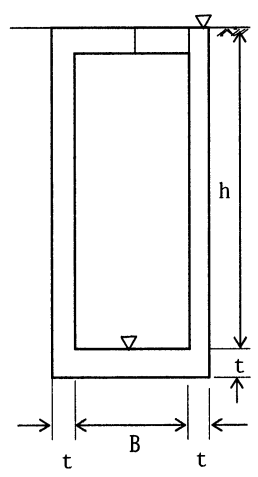
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	管きよ工 (小口径推進、 推進)	推進工	推進工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位（水平）は、 推進管1本ごとに1箇所測定する。		
					中心線の変位（水平）	±50			
					勾配	±20%			
					延長 l	- $l/500$ かつ - 200	延長 l はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			
下水道	管路	管きよ工 (小口径推進、 推進)	立坑内管布設工	空伏工	基準高▽	±50	1施工箇所ごとに測定する。		
					幅 b	-30			
					高さ h	-30			
					中心のずれ	±50			
					延長	-50			
					勾配	±20%			

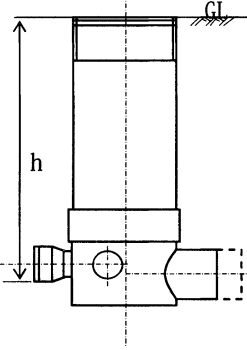
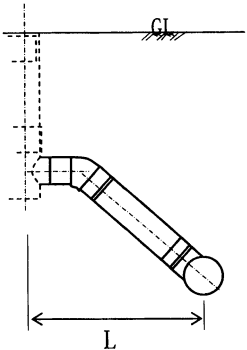
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	管きよ工 (シールド)	一次覆工	掘進工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位（水平）は、セグメント5リングにつき1箇所測定する。		
					中心線の変位（水平）	±100			
					延長 l	- $l/500$ かつ -200	延長 l はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			
下水道	管路	管きよ工 (シールド)	二次覆工	二次覆工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位（水平）は、施工延長40mにつき1箇所測定する。		
					中心線の変位（水平）	±50			
					二次覆工厚 t	-20	二次覆工厚は、1打設につき端面で上下左右4点を測定する。		
					仕上がり内径 D	±20	仕上がり内径は、施工延長40mにつき1箇所測定する。		
					勾配	±20%			
					延長 l	- $l/500$ かつ -200	延長 l はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			

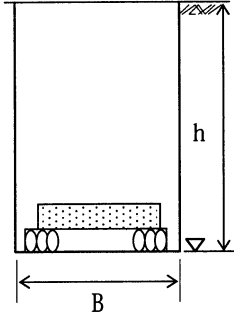
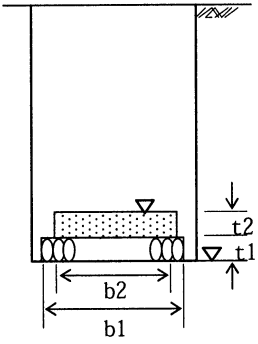
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	マンホール工	標準マンホール工	標準マンホール工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
				幅 b (内法)	-30				
				壁厚 t	-20				
				人孔天端高	±30				
下水道	管路	マンホール工	標準マンホール工	マンホール基礎工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
				床堀深 H	±30				
				基礎工幅 B1	-50				
				基礎工高 h1	-30				
				コンクリート工幅 B2	-30				
				コンクリート工高 h2	-10				

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	マンホール工	組立マンホール工	組立マンホール工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
					人孔天端高	±30			
下水道	管路	マンホール工	小型マンホール工	小型マンホール工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
					人孔天端高	±30			
下水道	管路	特殊マンホール工	躯体工	現場打ち特殊人孔	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
					幅 B	-30			
					高さ h	±30			
					壁厚 t	-20			
					人孔天端高	±30			

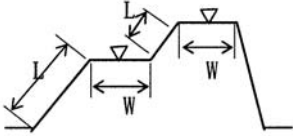
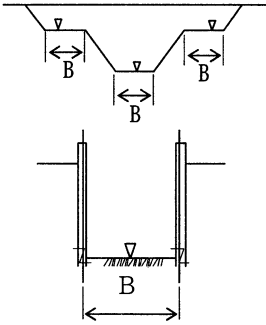
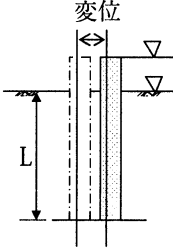
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	特殊マンホール工	伏せ越し室・雨水吐室	伏せ越し室・雨水吐室	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
					幅 b (内法)	±30			
					高さ h	±30			
					厚さ t	-20			
下水道	管路	特殊マンホール工	伏せ越し管	伏せ越し管	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
					中心線の変位	±30			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	特殊マンホール工	越流堰 (雨水吐室)	越流堰 (雨水吐室)	基準高▽	±10	基準高は、中央部および両端部を測定する。 幅、高さ、延長は、1施工箇所ごとに測定する。		
				幅b (厚さ)	±20				
				高さh (深さ)	±30				
				延長L (長さ)	-20				
下水道	管路	特殊マンホール工	中継ポンプ施設	中継ポンプ施設	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
				幅、長さ B	-30				
				深さ h	-30				
				壁厚 t	-20				

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	取付管およびます工	ます設置工	公共ます	ます深 h	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
下水道	管路	取付管およびます工	取付管布設工	取付管	延長(L)	-200	1施工箇所ごとに測定する。		

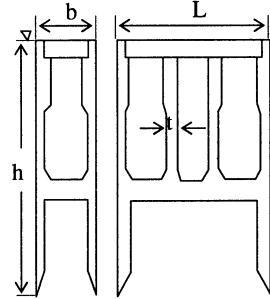
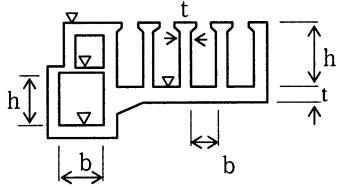
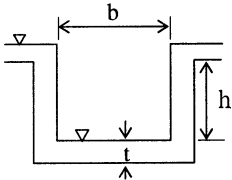
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	管路	立坑工		立坑工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
					寸法 B	±100			
					深さ h	±30			
下水道	管路	立坑工		立坑土工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
					碎石基礎幅b1	-50			
					碎石基礎厚t1	-30			
					底版コンクリート基準高	±30			
					底版コンクリート幅b2	-30			
					底版コンクリート厚t2	-10			

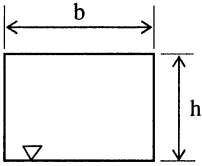
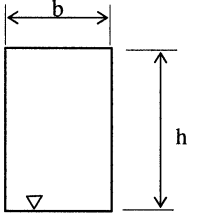
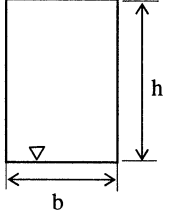
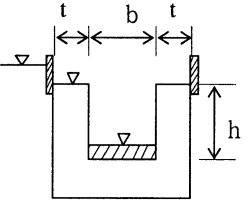
第2章 処理場・ポンプ場編

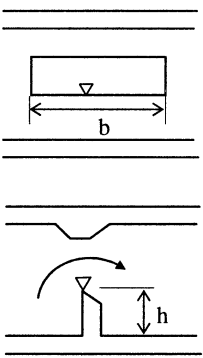
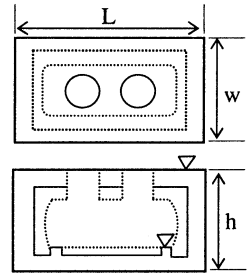
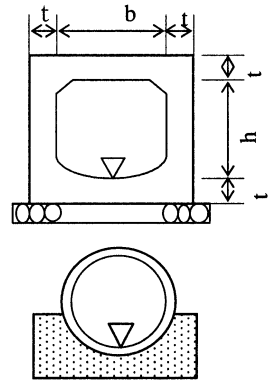
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	処理場・ポンプ場	敷地造成土工	法面整形工	盛土・切土	基準高▽	±50	施工延長おおむね40mごとにつき1箇所、40m未満は1施工箇所につき2箇所測定する。		
					幅 W	-100			
					法長L<5m	盛土： -100			
					法長L<5m	切土： -200			
					法長L≥5m	盛土： -2%			
					法長L≥5m	切土： -4%			
下水道	処理場・ポンプ場	本体作業土工	掘削工	土工（掘削）	基準高▽	±50	施工延長おおむね40m（小規模なものは20m）ごとに基準測線を設定し、基準高を10mごと、変化点ごとに測定する。		
					幅B	-100			
下水道	処理場・ポンプ場	本体仮設工	土留・仮締切工	土留・仮締切工 (H鋼杭、鋼矢板)	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は、1施工箇所につき2箇所測定する。		任意仮説の場合は除く
					根入長L	設計値以上			
					変位	100			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	処理場・ポンプ場	本体仮設工	地中連続壁工	コンクリート壁	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものについては1施工箇所につき2箇所測定する。 垂直変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所測定する。		
					地中壁の長さ L1	-50			
					垂直変位	300			
					壁体長L	-200			
下水道	処理場・ポンプ場	本体仮設工	地中連続壁工	ソイル壁	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものについては1施工箇所につき2箇所測定する。 垂直変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所測定する。		
					地中壁の長さ L1	-50			
					垂直変位	D/4以内			
					壁体長L	-200			
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	直接基礎工	構造物基礎	幅 W	設計値以上	施工延長20mにつき1箇所以上測定する。施工延長20m以下は、1施工箇所につき2箇所測定する。		
					厚さ t	設計値以上			
					延長	各構造物の規格値による			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	既製杭工	既製杭	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定する。		
					根入長 L	設計値以上			
					偏心量 δ	D/4以内かつ 100mm			
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	場所打ち杭工	場所打ち杭	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定する。		
					根入長 L	設計値以上			
					偏心量 δ	D/4以内かつ 100mm			
					杭径 D	設計値以上			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	ニューマチックケーソン基礎工	ケーソン基礎	基準高▽	±100	打設ロットごとに測定する。		
					長さ L	-50			
					幅 b	-50			
					高さ h	-100			
					壁厚 t	-20			
					偏心量	300以内			
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工	池・槽の主要構造物	基準高▽	±30	1池（又は1槽）について、図面の主要なる寸法表示箇所を測定する。		
					幅 b	±30			
					高さ h	±30			
					壁厚 t	-20			
						ただし 床版厚			
					長さ	±50			
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工	池・槽の付属構造物	基準高▽	±20	1施工箇所ごとに図面の主要なる寸法表示箇所を測定する。		
					幅 b	±20			
					高さ h	±20			
					壁厚 t	±10			
					長さ	±50			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工	開口部	幅 b	±20	永久開口部ごとに測定する。		
					高さ h	±20			
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工	ゲート用開口部	基準高▽	-20	開口部ごとに測定する。		
						+0			
					幅 b	+0			
						+20			
	高さ h	±20							
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工	可動せき用開口部	基準高▽	-20	開口部ごとに測定する。		
						-0			
					幅 b	+20			
					高さ h	±20			
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	越流樋工	流出トラフ	基準高▽	±20	基準高は、1施工箇所ごとに交差点等を測定する。		
					幅 b	±20			
					高さ h	-20	幅、高さは、各池の1施工箇所について3箇所測定する。		
					厚さ t	±20			
					長さ	±50			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要	
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工	越流堰板工	越流堰	基準高▽	±20	基準高は、中央部及び両端部を測定する。 幅・高さは、1施工箇所ごとに測定する。			
					幅 b	±20				
					高さ h	-20				
					長さ	±20				
下水道	処理場・ポンプ場	本体築造工		燃料貯留槽工	基準高▽	±30	設計図の寸法表示箇所を測定する。			
					厚さ t	-20				
					幅 w	-30				
					高さ h	±30				
					延長 L	-50				
下水道	処理場・ポンプ場	場内管路工	管布設工	流入渠・流出渠	基準高▽	±30	設計図の寸法表示箇所を測定する。			
					幅 b	-30				
					高さ h	-30				
					厚さ t	-20				
					延長	L<20m				-50
						L≥20m				-100